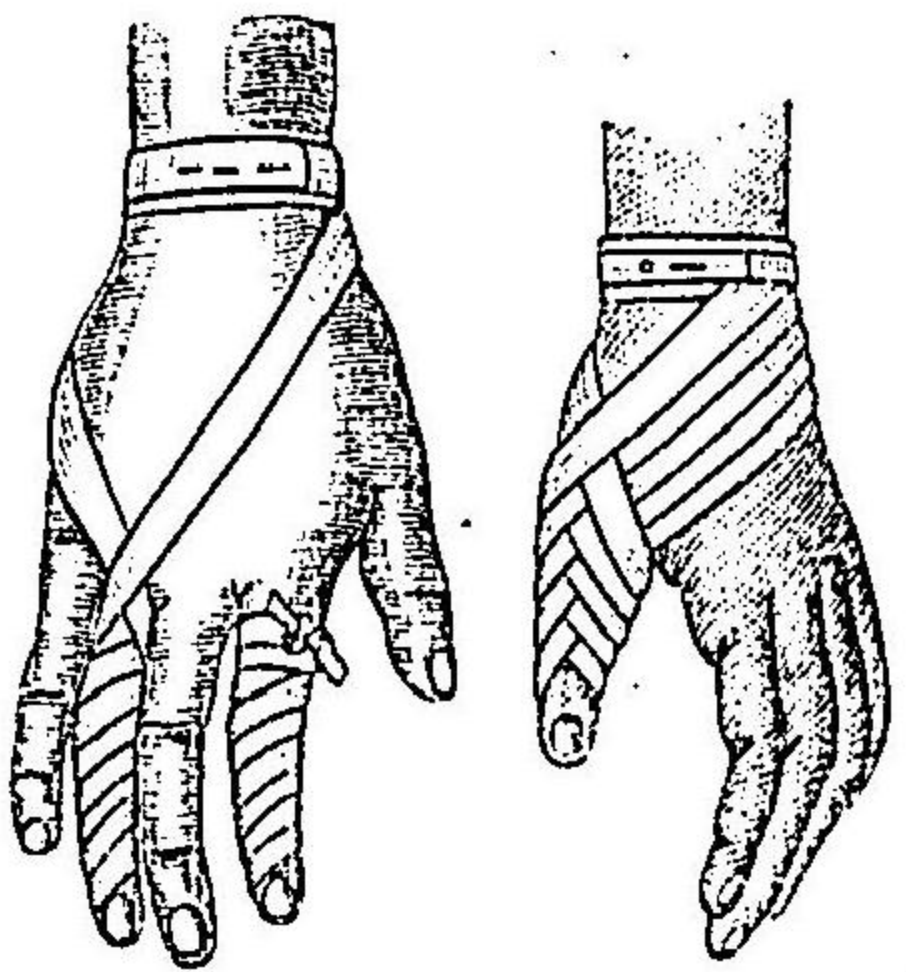


ナリ先ツ病手ヲ伸シテ始端ヲ手腕ニ置キ撓骨側ヨリ尺骨側ニ向ヒ

圖四百第

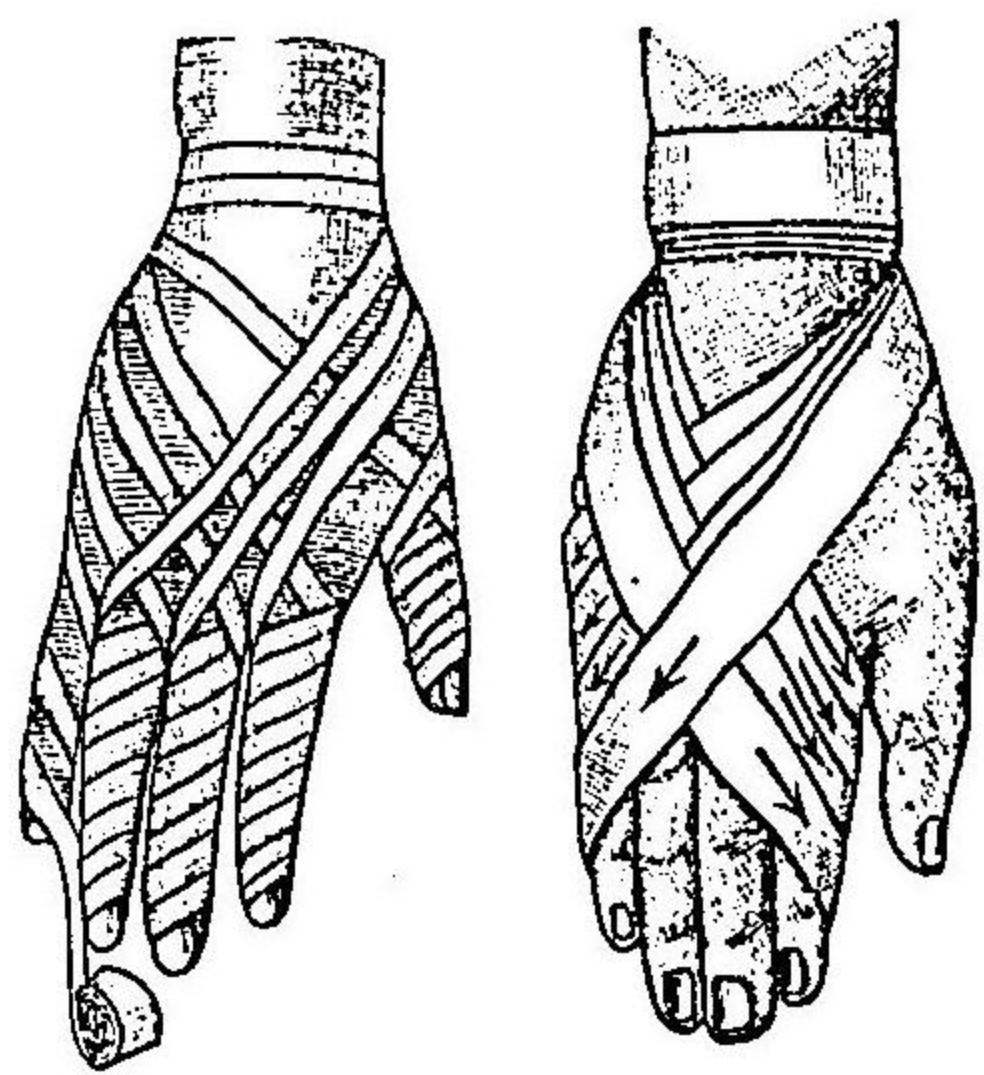


纏絡シ斜ニ拇指ト示指ノ間ヨリ指  
尖ニ至リ更ニ手掌ヲ經テ手腕ニ返  
リテ回轉ス此ノ如ク數回反覆シテ  
止ム(第百四圖ノ如シ)効ハ拇指ノ創  
傷ヲ被護シ整骨後ノ位置ヲ適當ニ  
保タシム

其他手指ノ繃帶法ハ之ニ同シ

十二手套帶 手腕ニ於テ始端ヲ固定スルコト法ノ如クシ後斜ニ下行  
シ指尖ニ至リ反轉シテ螺旋狀ニ纏絡シテ指根部ニ至リ斜ニ上リテ  
手腕ニ至リ一回轉ヲナス此ノ如ク順次各指ヲ纏絡シ終レハ更ニ手  
腕部ニ環行帶ヲ施シテ止ム(第百五圖ノ如シ)効ハ指ノ火傷ニ於テ瘡  
着ヲ防キ或ハ手掌手背ノ繃帶品ヲ固定シ又脫臼骨折ノ整復後適當  
ノ位置ヲ保タシム

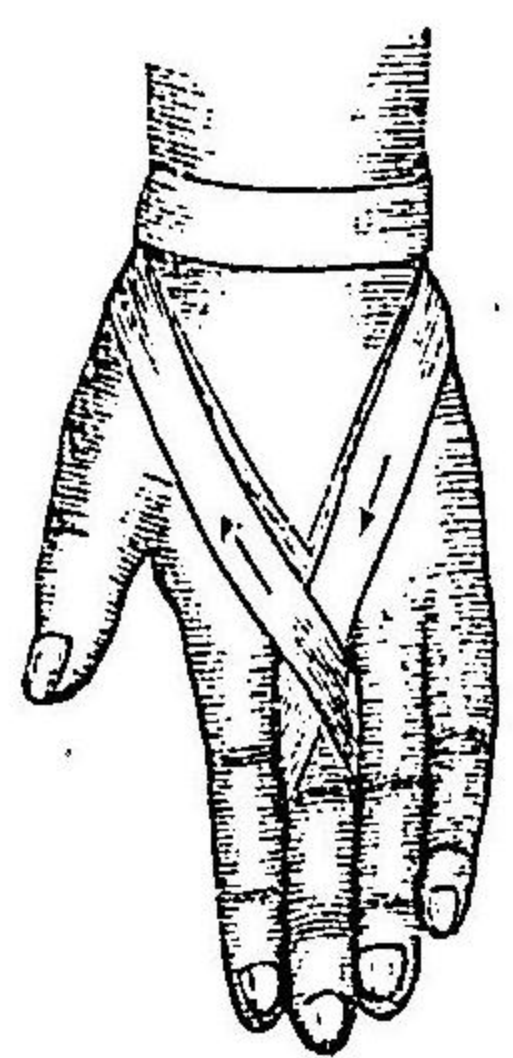
圖五百第



十三半手套帶 是前法ニ類シ只指

尖ヲ露呈スルニアリ即チ手ヲ平  
面ニ保チ尺骨側ヨリ撓骨側ニ向  
ヒ環行帶ヲ施シテ固定ス而シテ  
斜ニ手背ヲ經テ示指掌面ヲ繞リ  
其背面ニテ交叉狀ヲナシ手腕尺  
骨側面ニ至リ更ニ手腕ヲ繞リ撓  
骨面ニ至リ又下行シテ中指ヲ經  
フコト前ノ如クス此ノ如ク順次  
ニ各指根部ヲ被ヒ終ニ手腕部ニ  
環行帶ヲ施シテ止ム(第百六圖ノ  
如シ)効ハ手背ノ繃帶品ヲ固定ス

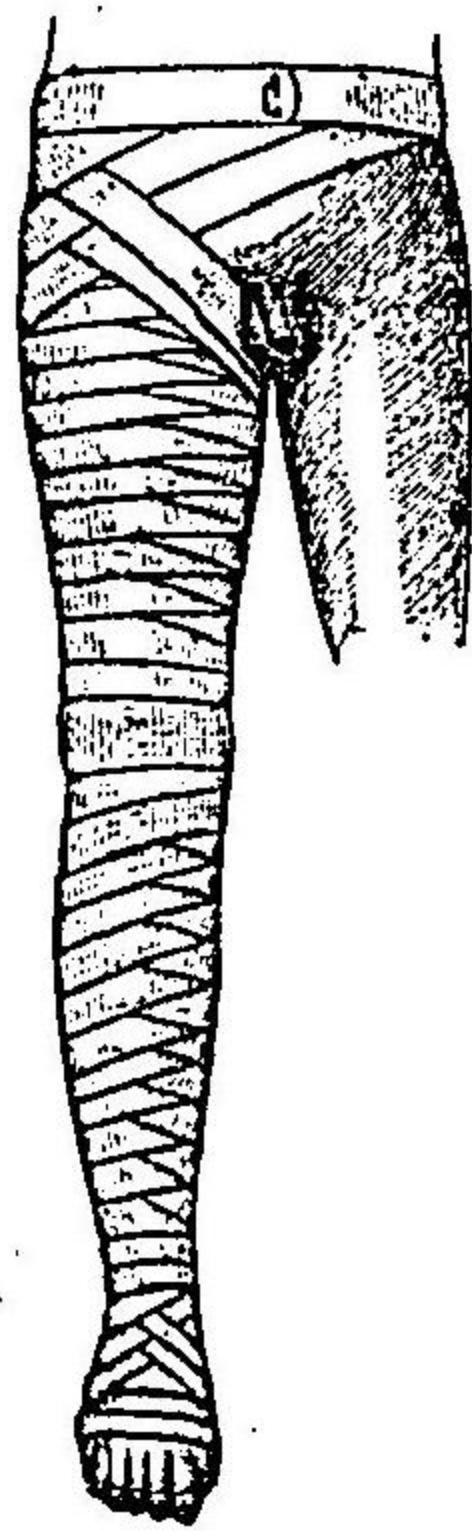
圖六百第



十四膝ノ交叉帶 前述ノ如シ効ハ膝上ノ繃帶品ヲ固定シ此ノ部ヲ壓  
迫ス

十五下肢螺旋帶 之ヲ例スルニ先ツ右足ニ施スモノトスレハ始端ヲ足踝上ニ置キ外側ヨリ内側ニ向ヒ回轉シテ始端ヲ固定シ外踝上ヨ

圖七百第



リ轉シテ斜ニ足背ヲ下リ足ノ内縁ニ至リ足蹠ヲ過キ小趾側ニ至リ足根部ヲ螺旋狀ニ上行シツ、纏絡スルコト二三

回ノ後轉シテ足背ニ至リ更ニ下脚ニ至リ一周ノ後又足背ヲ下リ足蹠ヨリ外縁ニ出テ足背ヲ上行シテ下脚ノ脛骨部ニ至リ更ニ折轉帶ヲ施シツ、下脚ヲ上行スヘシ(第百七圖ノ如シ)

此ノ法ハ簡易ニシテ行ヒ易キモ踵部ヲ覆フコト能ハサルノ弊アリ但シ其上下ヲ纏包シテ一處ヲ露出スルトキハ其部ニ腫脹疼痛ヲ發スルコトアリ故ニ次ノ術式ニ依ルヲ完全ナリトス

其法右足ニ於テスルニハ先ツ始端ヲ固定スルコト前ノ如クシ内踝

圖八百第



及ヒアヒリス(臑上)ヲ繞リ外踝ト跟骨後端ノ間ヲ斜ニ過キテ足蹠ヲ經趾趾ニ至リ轉シテ足背ニ返リ螺旋狀ニ纏包シツ、内踝ニ達シ内踝ト踵ノ間及ヒアヒリス(臑上)ヲ過キ外踝ノ上部ニ至リ足背ヲ踰ヘ下脚ト足背及足蹠ノ三部ニ於テS字形ヲシタル後脛骨側ニ至リ後螺旋狀ニ上行スルコト法ノ如クス(第百八圖ノ

如シ)効ハ下脚ヲ安靜ニ保チ此下ノ繃帶品ヲ固定ス

異物除去法

眼ノ異物

異物ハ眼瞼囊内ニ竄入スルモノニシテ多クハ上眼瞼囊内ニ入ルモノナリ故ニ能ク翻轉シテ之ヲ精査シ若シ竄入シアレハ速ニ取り除クヘシ

耳ノ異物

耳内ニ硝子球、石片、豆、小豆或ハ昆虫類入ルコトアリ硝子石片等ノ如キ

濕氣ノ爲ニ膨大セサルモノハ患耳ヲ患側ノ肩胛上ニ傾クルトキハ自然重量ニ依リ滑脱スルモノナリ若シ箝入シタルモノナルトキハ細キ金屬線ノ係蹄ヲ送り之ヲ引キ出スカ又ハ鑷子ヲ以テ摘ミ取ルヘシ然レトモ樹脂硬膏ヲ細拵ノ一端ニ附シ少シク暖メテ耳内ノ異物ニ接着シ置キ固着スルヲ待テ引キ出スヲ最モ簡便トス若シ硬膏ナキトキハ阿膠ヲ用ユルモ可ナリ

昆虫類ノ竄入シタルトキハ食鹽氷ニテ洗滌スレハ自然流出シ得ルモノナリ

鼻ノ異物

異物鼻孔内ニアルトキハ一側ノ鼻孔ト口ヲ閉塞シ強ク噴嚏スレハ其勢力ニヨリテ逃出スヘシ若シ固着シアルトキハ鑷子係蹄又ハ匙ヲ異物ノ後方ニ送り引キ出スヘシ

皮下ノ異物

細針細木片ノ如キモノ皮下ニ刺入シタルトキハ能ク消毒シタル小刀

尖ヲ以テ切開除去スヘシ

爪下ノ異物

爪下ニアルトキハ爪ノ一部分ヲ切除シテ異物ニ達シ鑷子ヲ以テ取り出スヘシ此際爪部ヲ溫湯中ニ浸漬稍々柔軟ナラシムヘシ

指環ノ箝頓

先ツ指ノ尖端ヨリ細キ縞帶ヲ以テ少シク壓迫ヲ加ヘツ、緊搏シ指環下ニ至リ暫時ヲ經テ之ヲ除クト同時ニ指環ヲ廻轉セシメテ除去スヘシ

「カテーテル」使用法

「カテーテル」(導尿管)ハ管狀ニシテ鑲性ノモノト護膜製ノ二種アリ鑲性ノモノハ銀又ハ新銀ヲ以テ造ル其長サ二十四センチメートル乃至三十六センチメートルヲ有ス内外ノ二端及ヒ體部ノ三部ニ分割ス體部又軸ハ眞直ナル部分ヲ云ヒ其内端膀胱ニ送入スル部分ハ彎曲シテ一側方又ハ兩側ニ孔眼ヲ有ス之レ流動體ヲ流出セシムルノ要ヲナ

ス外端ノ兩側ニ翼狀板又ハ二個ノ環輪ヲ附シ之レ尿道中ニ滑脱スルヲ防クト其内端ノ位置即チ方向如何ヲ鑑識スルノ標示ヲナスモノナリ其彎曲ノ大小種々アリト雖トモデソルト氏ノ内端ノミ彎曲セルモノヲ適當トス細大ノ番號ヲ附スルニ佛國製ノモノト英國製ノモノニ依リテ異ナレリ佛國製ノモノハ一號ヨリ十八號迄トス英國製ノモノハ一號ヨリ三十號迄トス其製造器械店ニ於テ一様ナラスト雖トモ英國番號シヤクエル氏ヲ普通施用セラル其一番ハ「ミリメートル」ノ三分一ニシテ三十番ハ「センチメートル」ノ直徑ヲ有スルモノナリ又各號ノ差「ミリメートル」ノ三分一トス例ヘハ三號ハ「ミリメートル」ノ直徑ヲ有スルカ如シ

軟性且ツ弾力性アル護膜製英國製ノモノハ赤褐色ニシテ細キ屈撓性アル鍍線ヲ有スルモノ又佛國製ノモノハ黒色ニシテ米國製ノモノハ煉瓦石様ナリ何レモ鍍線ヲ挿入スルトキハ隨意ノ屈曲ヲ得ルモノナリ

佛國製ノモノハ價廉ナレトモ保存性少ナク又破損シ易シ英國製ノモノハ脆弱ナラス微温湯中ニ浸ストキハ柔軟トナルノ性ヲ有ス佛國製ニ比シテ堅固ナルコト確實ナリ其他ネラトソン氏ノ柔軟カテーテルナルモノアリ自由ニ彎曲スルヲ以テ尿道等ヲ損傷スルコトナシ

總テ護膜製ノモノヲ使用スルトキハ其應用ニ耐フルヤ否ヤヲ検査シタル後ニアラサレハ使用スヘカラス

「カテーテル」ヲ送入スルニ當テハ内外ヲ充分ニ清潔ニシタル後チ確實ニ防腐法ヲ施シ決シテ粗略ナルコトナキヲ要ス鍍性ノモノニアリテハ三分乃至五分時間沸湯中ニ入レ置クヘシ尙ホ無水アルコイルヲ以テ清拭シタル後チ殺菌シタル油類ヲ塗布ス

護膜製ノモノニアリテハ一千倍ノ昇汞水ヲ以テ内外ヲ注意シテ洗滌シ一旦煮沸シタルモノ、稍々熱キ温湯ニ暫時間放置シテ柔軟ナラシメ殺菌油類ヲ塗ルヘシ

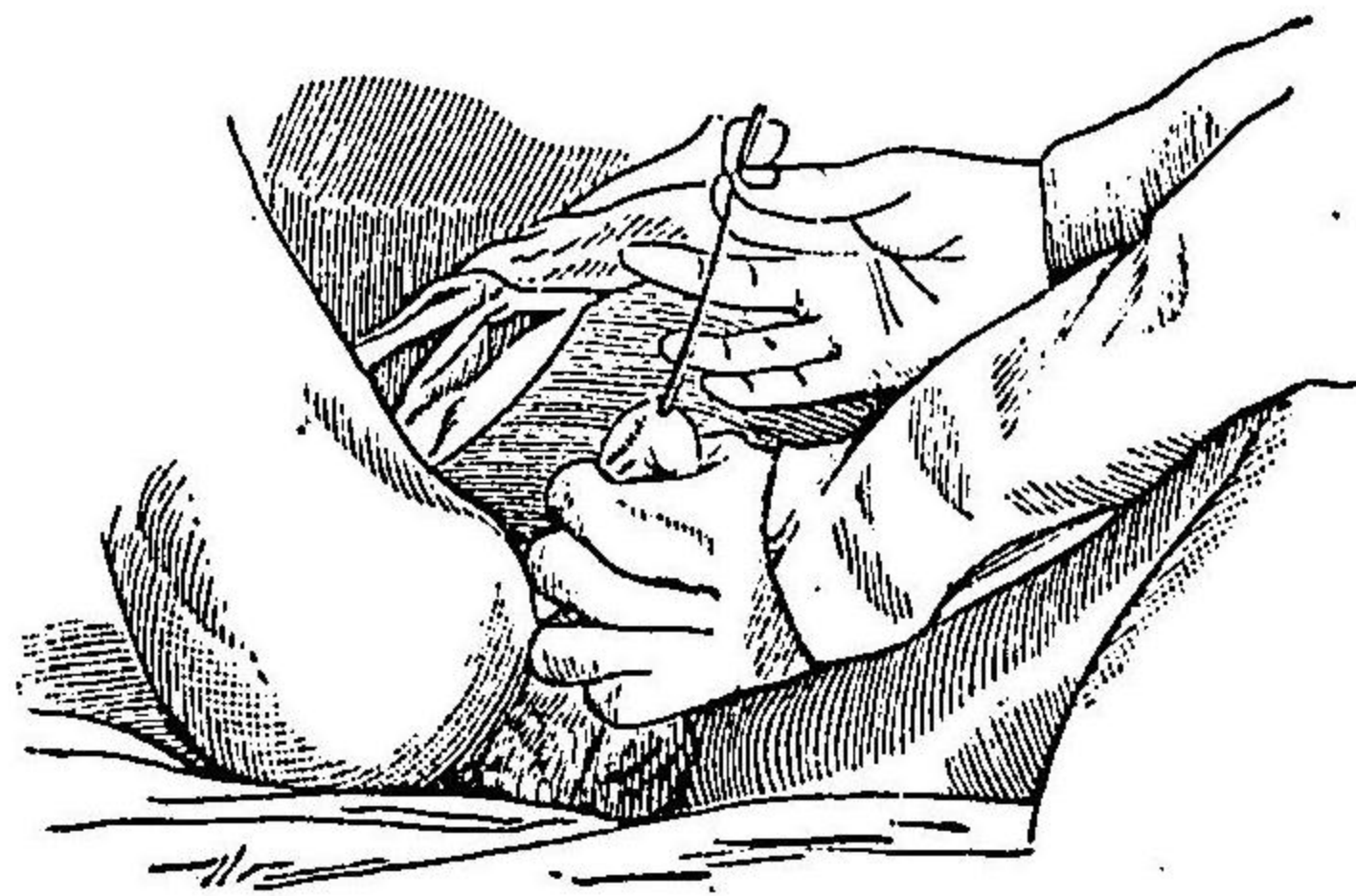
「カテーテル」ノ寒冷ナルモノハ不快ヲ感セシムルモノナレハ使用前ニ

清潔ナル布片ヲ以テ摩擦スルカ又ハ三十倍ノ微温石炭酸液中ニテ暖メサルヘカラス

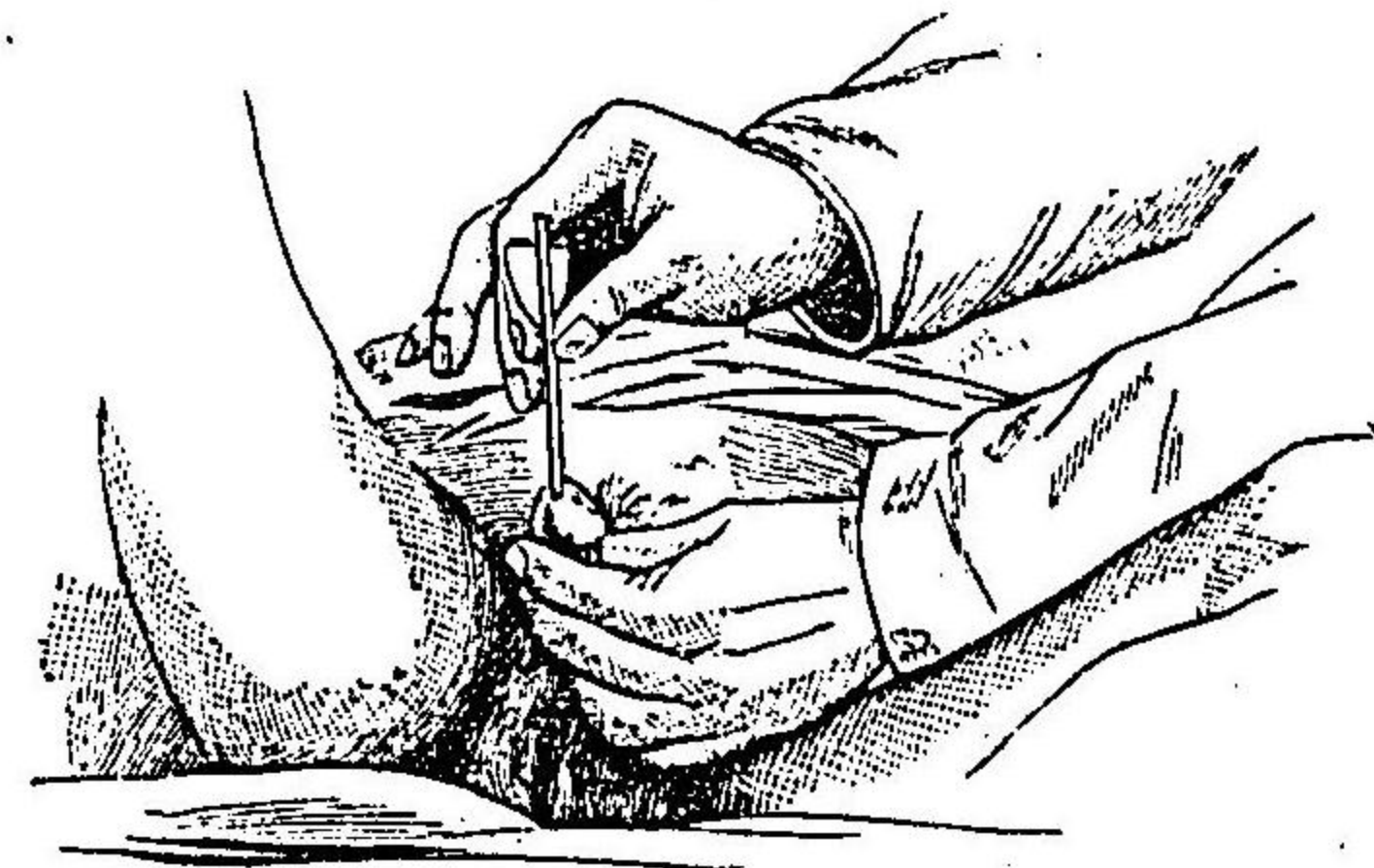
「カテーテル」使用後悪寒戰慄高熱ヲ發スルコトアリ

若シ前記ノ消毒方法ヲ確守セサルトキハ膀胱炎腎臟炎ヲ誘發シ重症ニ陥ラシムルコトアレハ決シテ忘却スヘカラス

「カテーテル」ヲ送入スルニ際シ患者ヲ仰臥セシメ右手ヲ以テ把筆狀ニ把持シ示指ヲ臍窩ニ當テ左手ヲ以テ陰莖ヲ持チ牽引シテ「カテーテル」ヲ尿道孔口内ニ導キ右手ニカヲ用ユルコトナク尿道ノ前壁ニ沿フテ徐々ニ挿入スヘシ膜様部(肛門ト陰囊ノ中間)ニ至レハ左手ヲ會陰ニ當テ右手ノ「カテーテル」ヲ高舉スレハ容易ニ膀胱内ニ滑達スルモノナリ此際決シテ力ヲ加ヘテ送達スルコトヲ毫モナスヘカラス若シ力ヲ加ヘテ送入スルトキハ軟部組織ヲ穿通スルコトアレハナリ前記ノ如ク軟部組織ヲ穿通シタルトキハ其創口ヨリ尿液浸潤シ腐敗性ノ蜂窩織炎ヲ起シ危険ニ至ルコトアリ



(況狀ノ一第入送ルテカ)



(況狀ノ二第入送ルテカ)

### 内科

#### 傳染病

##### 猩紅熱

原因 觸接傳染毒ナレトモ未タ詳ナラス直接ニ患者ノ蒸發氣呼氣排泄物間接ニ人什器ヨリ感染ス

症候 發熱口蓋咽頭炎扁桃腺炎頸腺腫起喉下困難頸部ノ疼痛頸部ニ先發シテ全身ニ至ル發疹葉狀落屑經過三週間ナリ

治法 豫防法及ヒ攝生ヲ專ラニシ症候的療法ヲ行フ即チ病者ヲ離隔シ排泄物ヲ消毒ス藥劑ニハ里母那埵ノ内服鹽酸加里水ヲ含嗽セシメ高熱時ニハ下熱劑ヲ投與スヘシ

#### 處方

(一) 鹽酸里母那埵  
右頻回分服

二〇〇〇

(二) 五十倍鹽酸加里水

含嗽料

(三) アンチピリン

〇五

乳糖

〇五

右一包ト爲ス 頓服

#### 發疹奎扶斯

原因 觸接傳染毒ナレトモ未タ詳ナラス直接ニ病者ノ蒸發氣呼氣間接ニ人什器ヨリ感染ス

症候 體溫忽然昇騰シテ稽留性ヲ呈シ發疹ハ胃窩ニ先發シテ稠密ニ全身ニ布滿ス精神症狀ヲ現呈シ經過三週間ナリ

治法 豫防法即チ隔離法ヲ行ヒ攝生ヲ守ラセ里母那埵ヲ與ヘ虛脫ニ陥ル恐レアラハ「ブランダ」葡萄酒或ハ他ノ興奮劑ヲ劇熱ニハ下熱劑ヲ投與スヘシ

#### 痘瘡

原因 觸接傳染毒ナレトモ未タ詳ナラス病毒ハ襯衣什器及ヒ人ヨリ

感染ス

症候 發熱發疹後直ニ下降シ醗膿期再ヒ亢進ス第三日ノ終ニ前額鼻  
頰部ニ蓄疹ヲ發シ次テ軀幹四肢ニ及フ第五日小結節トナリ第六日ニ  
水泡ヲ形成シ第九日ニ醗膿シテ周圍ニ赤暈ヲ呈ス第十二日ニ至リ結  
痂ヲ初メ暫クニシテ落痂ス其他腰痛全身皮膚ノ腫脹眼險腫起嚙下困  
難アリ經過五六週間ナリ

治法 豫防法即チ種痘隔離法ヲ行ヒ病室ハ可及的廣クシテ微暗ナル  
ヲ要ス溫度ヲ均一ナラシメ流動性滋養物ヲ與ヘ毎日一回上固ヲ催シ  
里母那垚ヲ投シ高熱時ニ下熱劑ヲ用ヒ五十倍ノ鹽酸加里水ヲ以テ含  
嗽セシムヘシ

「ペスト」

原因 「ペスト」微菌ニシテ病毒ニ汚染セラレタル物品ヨリ感染ス

症候 發熱譫語淋瀝腺腫起便秘血尿嘔吐皮膚出血又ハ胃腸ノ出血等  
アリ此病ニ罹レハ殆ト皆死ニ期ス

治法 豫防法即チ隔離法ヲ行ヒ消毒ヲ確實ニスヘシ内服ニハ里母那  
垚高熱ニ下熱劑虛脫ニハ興奮劑ヲ與フヘシ

腸室扶斯

原因 室扶斯微菌ニシテ其病毒ハ糞便中ニ含ミ以テ之カ傳播ヲナス  
モノナリ

症候 第一週ニ於テハ梯子狀ニ體溫昇騰シ第二週ノ間ハ稽留性トナ  
リ第三週ハ弛張性次テ漸ク下降ス第一週ノ終ニ蓄微疹腹部四肢ヲ發シ  
腹部膨滿盲腸廻腸部ノ雷鳴及ヒ知覺過敏皮膚乾燥譫言耳鳴頭痛舌乾  
燥體溫ト脈搏ト一致シテ亢進セス下痢或ハ便秘下血ヲ來ス經過四五  
週間ナリ

治法 豫防法即チ隔離法ヲ行ヒ糞尿器衣服等ヲ消毒シ專ラ攝生ヲ守  
ラセ流動性ノ滋養物ヲ與フ臥床ハ注意シテ皺壁ヲ生セシムヘガラス  
最初ニ甘汞下劑ヲ與ヘ後チ里母那垚ヲ服セシム高熱時ニハ下熱劑ヲ  
用ヒ頭部ニ氷嚢ヲ置クヘシ若シ腸出血ヲ來ストキハ右腸骨窩部ニ氷

瀉ヲ貼シ阿片劑ヲ投ス虚脱ノ狀況アラハ興奮劑ヲ用ユ

處方

(一) 甘露

〇.五

乳糖

〇.五

一包トナス頓服

(二) 稀鹽酸

一.〇

葡萄酒

三〇.〇

單舍利別

適宜

水

二〇〇.〇

右一日頻回分服

(三) 阿片末

〇.〇六乃至〇.一

乳糖

一.五

三包トス一日服用(腸出血ノ時)

赤痢

原因 病毒ハ大便中ニ含リ其病毒ニ汚染セラレタル厠房襪衣井水等ヨリ傳搬シ土地ノ性質食物ノ不良精神感動等誘因トナルモノナリ  
症候 赤痢ヲ發シ特異ノ便(血液ヲ混スル粘液便或ハ褐色便ニシテ腐敗肉様ノ惡臭ヲ帶フルコトアリ)ヲ排泄シ裏急後重ス下痢ハ頻回ニシテ一晝夜二十回乃至六十回ニ至リ大腸部ニ索狀物ヲ觸レ左腸骨部ノ疼痛及ヒ按壓痛ヲ發ス重症ハ脉搏細數ニシテ諸症一層劇甚ナリ  
治法 豫防法ヲ行ヒ患者ハ蓐中ニアリテ攝生ヲ嚴守セジメ流動性滋養物ヲ與ヘ腹部ニ溫罨布ヲ貼シ「ヒマシ」油甘露ヲ與ヘ後チ次硝酸蒼鉛阿片合劑ヲ内服セシムヘシ

處方

(一) 甘露

〇.五

乳糖

〇.五

一包トナス頓服

(二) 「ヒマシ」油

一五.〇乃至二〇.〇



頓服

(三) 次硝酸蒼鉛

乳糖

三包トス一日量

二〇

一五

(四) 次硝酸蒼鉛

阿片末

乳糖

三包トス一日量

三〇

〇〇五乃至〇一

一五

(五) 托氏散

乳糖

三包トス一日量

〇五乃至〇八

一五

虎列刺

原因 「コンマハチルレン」ニシテ病者ノ大便中ニ含有ス故ニ人民ノ交通ニ依リテ傳搬ス感冒不攝生腸胃加答兒不良ノ飲水等ハ誘因トナル

モノナリ

症候 症候ノ異ナルニヨリ左ノ三種ニ區別ス

(一) 虎列刺下痢 吐腹雷鳴ニ次テ多量ノ液汁ヲ下痢ス苦痛痛痛ナク下痢後虚脱症ヲ呈シ嘔吐吃逆煩渴食機欠乏皮膚厥冷腓腸部ニ輕易ノ疼痛ヲ發ス

(二) 輕症虎列刺 虎列刺下痢ヨリ起リ屢々液性下痢ヲ生スル頻數且ツ多量ナルハ無色或ハ灰白色ノ水様液即チ米泔汁ニシテ便臭ナク尿量減少或ハ尿閉嘔吐シ漸々虚脱ニ陥ル

(三) 絶脈虎列刺 米泔汁ノ吐瀉絶脈全身蒼青皮膚厥冷シテ緊張減却缺尿眼窩陷凹聲音嘎嘶疼痛性筋痙攣ヲ發スルモ僥倖ナルモノハ反應期ニ轉シ快復スルカ又ハ窒扶斯様發作ヲ發シテ死ニ期ス

治法 豫防法即チ隔離法ヲ行ヒ不良ノ飲水ヲ封鎖シ厠房ヲ清潔ニス排泄物ヲ消毒シ專ラ攝生ヲ守ラシメ患者ヲ藪中ニ安臥セシメ腹部ニ溫布ヲ貼シ渴アルモノニハ氷片ヲ與ヘ最初ニ甘菜下劑ヲ投シ後チ

阿片挖氏散等ヲ用ヒ又鞣酸水ノ灌腸ヲ施行ス虚脱ニ陥ルモノニハ與  
番劑ヲ與フヘシ

處方

- (一) 廿 汞 〇.五
- 乳 糖 〇.五
- 一包トシ頓服
- (二) 阿片末 〇.〇五乃至〇.一五
- 乳 糖 一.五
- 三包トナシ一日ノ量
- (三) 挖氏散 〇.五乃至一.〇
- 乳 糖 一.五
- 三包トナシ一日ノ量
- (四) 二百倍鞣酸水 五〇〇〇
- 右灌腸料

實扶的里

原因 實扶的里微菌ニシテ呼氣接吻汁器等ヨリ感染シ稠人密居厠房  
不潔等ハ蔓延ヲ補助スルモノナリ

症候 初メ咽頭炎又ハ喉頭炎ヲ以テ起リ扁桃腺頸下腺肥大シ疼  
痛アリ軟口蓋咽頭扁桃腺ニ灰白色ノ義膜ヲ沈着シ之ヲ剝離スレハ出  
血ス嚙下困難倦怠脈搏頻數トナリ氣道ヲ侵襲スレハ聲音啞嘶格魯布  
性咳嗽呼吸困難顔面蒼白ヲ呈シ危險ニ陥ルモノナリ

治法 豫防法即チ隔離法ヲ行ヒ葍中ニ靜臥セシメ流動性滋養物ヲ與  
ヘ頸部ニ濕布法ヲ行ヒ鹽酸里母那埕ヲ與ヘ鹽酸加里水ヲ合嗽セシム  
高熱時ニハ下熱劑ヲ投ス最モ心動及ヒ脈搏ニ注意スヘシ最初本症ナ  
ルコトヲ知ラハ猶豫スルコトナク實扶的里血清ヲ胸側又ハ臀部ニ注  
射スヘシ(但シ其症ニ應シ適當ノ免疫單位血清ヲ用ユルハ勿論ナリ)

黃熱

原因 諸說アレトモ未タ詳ナラス米國西印度メキシコ亞弗利加等ニ

流行ス

症候 本症ヲ三期ニ分ツ第一期ハ體溫昇騰、顳額部ノ疼痛、眼ノ直視、結膜潮紅、惡心、嘔吐、皮膚ノ腐敗、樣臭氣、第二期ハ忽然發汗シテ體溫下降シ、諸症減退ス、第三期ハ結膜、皮膚黃色ヲ呈シ、尿量減少シ、此期ニ於テ尿毒症ノ爲メ斃ル、コト多シ

治法 豫防法ヲ專ラニシ、甘汞、ヒマシ、油ヲ與ヘ、後チ阿片ヲ投ス、其他撒里質、爾酸、曹達等ヲ與フ

丹毒

原因 分裂微菌ニシテ、其ノ病毒粘膜炎、皮膚ノ創傷ヨリ侵入スルモノナリ  
症候 高熱、皮膚紅色、腫脹、灼熱、健康部トノ境界判明ニシテ、近傍ノ淋巴管及ヒ淋巴腺ノ炎症ヲ呈シ、刺痛、精神症狀、咽頭加答兒、嘔吐、胃痛、便秘等ヲ發ス

治法 豫防法ヲ緊要トス、即チ輕微ノ創傷ト雖トモ、石炭酸水ヲ以テ消

毒ス局處ニハ硼酸、ワセリンヲ塗布シ、綿花ヲ以テ被ヒ、内服ニハ里母那、埵ヲ與ヘ、高熱時ニハ下熱劑ヲ投スヘシ

流行性感胃

原因 未ク詳ナラス、流行性、散在性ニ起ルモノナリ  
症候 忽然惡寒、戰慄、發熱、結膜、鼻咽頭及ヒ氣管、氣管枝加答兒等ヲ發ス  
治法 症候的治法、即チ高熱時ニハ鹽酸規尼涅、アンチピリン、咳嗽略痰アルモノニハ祛痰劑ヲ與フ

處方

(一) 鹽酸規尼涅

〇.五

右丸トナシ頓服

(二) 醋酸アンモニヤ

二〇〇乃至三〇〇

杏仁水

五〇乃至八〇

橙皮舍利別

適宜

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服

(三) 攝涅瓦煎 (六〇乃至八〇)二〇〇〇

重碳酸曹達 三〇乃至五〇

杏仁水 六〇乃至八〇

橙皮舍利別 適宜

右一日三回二日ニ分服ス

急性肺炎 (肺炎)

原因 肺炎ハ固有ノ微菌ナリ肺臟打撲氣管枝加答兒ハ誘因トナルモノナリ

症候 忽然戰慄ヲ以テ起リ稽留熱ヲ呈シ患部ノ刺痛呼吸促迫衝突狀ノ咳嗽鏽色ノ咯痰アリ病後七日ニシテ分利ス經過十日乃至十四日ナリ

治法 患者ヲ隔離セシメ滋養物ヲ與ヘ渴アルモノニハ里母那埵虛脫ノ恐レアレハ興奮劑ノ内服胸痛甚シキトハ患側ニ四五十條ノ水蛭(貧

血者ニアラサルトキ)ヲ貼シ氷罨法ヲ行フヘシ(現今炭酸ケレソート)ノ多量ヲ服用セシメ効アリ)

處方

(一) 稀鹽酸 一〇

葡萄酒 三〇〇

單舍利別 適宜

水 二〇〇〇

右頻回分服

(二) 攝涅瓦煎 (六〇乃至八〇)二〇〇〇

杏仁水 六〇乃至八〇

橙皮舍利別 適宜

右一日三回二日ニ分服ス

痲病

原因 「ゴノコツケン」ニシテ不潔ノ交接ニヨリ傳染ス一回之ニ罹レハ

再感シ易キモノナリ

症候 急性症ハ尿道前部ノ癢痒、灼熱、利尿時ノ疼痛、尿意頻數、尿道唇紅腫、疼痛、性勃起、分泌ハ初メ粘液様ニシテ後チ膿様ニ變ス、經過ハ四週乃至六週ナリ

治法 豫防法即チ不潔ノ交接ヲ避ケ、發病後ハ身體ヲ安靜ニ保チ、刺戟性ノ飲食ヲ禁シ、癰膿ニ汚レタル者ヲ粘膜等ニ觸ル、ヲ禁戒スヘシ、宿便アルトキハ甘汞藥刺巴ノ下劑ヲ頓服セシム、其他骨滓波爾撒謨ヲ内服セシメ、硫酸亞鉛水ノ尿道洗滌ヲ行フヘシ

處方

(一) 骨滓波爾撒謨

八〇

華澄茄末

一五〇

白蠟

適宜

右百二十九トス一日三回、每食後ニ十粒宛

(二) 骨滓波爾撒謨

右每食後二個乃至三個

(三) 硫酸亞鉛

〇二

水

一〇〇〇

右尿道注入

但シ尿道注入ヲ行フトキハ尿道注射器ヲ應用ス、陰莖ノ一部即チ痲病ニ侵サレタル境界部ニ於テ護謨管ヲ以テ絞窄シ、注入液ト同時ニ癰膿ノ上行セサル様注意シタル後ニ行フヘシ、又睪丸炎ヲ發シタルトキハ注射ヲ行フコトヲ戒ムヘキモノナリ

軟性下疳

原因 病毒ハ未タ詳ナラス、粘膜皮膚ノ創面ヨリ傳染シ、媒介ハ接吻、手巾、飲食器械、不潔ノ交接等ナリ

症候 本症ノ潰瘍ハ瘡底深ク、邊緣峻峻ニシテ、噴火口狀ヲ呈シ、周圍ハ炎性赤色トナリ、瘡底ハ發生ノ極度ニ於テ豚脂様膜ヲ被リ、末期ニ至レ

ハ清潔トナリ分泌物膿性ニ變シ終ニ痂痕ヲ結フ下疳ノ部位ハ包皮包  
皮縁陰莖冠狀溝繫帶等ナリ

治法 攝生法ヲ固守セシメ刺戟性ノ飲食物ヲ禁シ上圍ヲ促シ朝夕疥  
底ニ沃度仿謨ヲ薄ク撒布シ「ワセリン」又ハ軟膏ヲ塗り綿花ヲ以テ潰瘍  
ヲ被フヘシ

### 梅毒

原因 梅毒微菌ニシテ血液中ニ含ル而シテ第一期第二期梅毒ノ皮膚  
及ヒ粘膜ノ分泌物ハ傳染性ヲ有ス故ニ交接飲食器具煙管等ヨリ感染  
ス

症候 左ノ如ク區別ス

第一期ハ硬性下疳ヲ生スル時期ヲ云フモノニシテ感染後二三週間  
ヲ經テ包皮陰莖外皮龜頭冠溝部ニ潰瘍ヲ生シ近隣ノ淋巴腺腫脹ス  
次テ二三週間毫モ變化セス病芽全身ノ血液ニ達シ更ニ皮膚粘膜ニ  
汎發症ヲ發スルノ時期ナリ

第二期ハ皮膚及ヒ粘膜ニ梅毒性疾患ヲ發起スル時期ヲ云フ末梢部  
淋巴腺腫脹皮膚疹ヲ發シ咽頭炎毛髮脫落筋痛神經痛眼病等ヲ發ス  
第三期ハ護謨腫ヲ生スル時期ニシテ皮下筋肉ニ發生スルノ他關節  
骨骨膜ニモ發生ス然ルトキハ腫脹劇痛機能障害強直ヲ來スモノナ  
リ

治法 豫防法ヲ行ヒ硬性下疳ニハ水銀軟膏ヲ朝夕一回貼シ或ハ沃度  
仿謨末ヲ撒布ス全身療法ニハ水銀軟膏ノ塗擦ヲ行フ即チ毎日二〇乃  
至四〇ヲ毎回局部ヲ交換シテ塗擦スヘシ此際中毒ヲ豫防スルニハ鹽  
酸加里水ヲ含嗽セシム「コンチローマ」ニハ五十倍ノ食鹽水ヲ毛筆ヲ以  
テ塗擦シ後チ甘草ヲ撒布ス内服ニハ汞劑第三期ニ沃度加里ヲ與フレ  
ハ最モ効アリ

### 處方

沃度加里  
橙皮舍利別

一〇乃至三〇  
適宜

水

右每食後一回二日ニ分服

二〇〇〇

脚氣

原因 未タ詳ナラス夏秋ノ候ニ流行シ卑濕ノ地都府海港人民ノ交通繁劇ノ地ニ多ク十五歳乃至三十歳ノモノニ多シ又座業家ハ罹リ易シ感冒氣候ノ急變身體精神ノ過勞ハ誘因トナルモノナリ

症候 初メ腸胃症感冒症ヲ發シ次テ下肢疲勞倦怠厥冷浮腫足背下脚ノ内側ニ知覺異狀アリテ漸々上脚下腹胸部ニ波及シ同時ニ指尖前膊ノ内側ニ知覺異狀ヲ起シ足跗關節膝關節弛緩シ歩行困難或ハ全ク歩行スル能ハス更ニ増進スレハ言語不調胸内苦悶心下壓重呼吸促迫心動亢進シ脈搏細數皮膚蒼白浮腫厥冷腱反射消失腓腸筋痛アリテ尿量減少便秘全身浮腫ヲ呈ス(症狀ノ異ナルニ依リ乾性脚氣濕性脚氣衝心性脚氣ニ區別ス)

治法 豫防法即チ原因トナルヘキ者ヲ避ケ高燥清潔ナル地ニ轉セシ

メ滋養物ヲ與ヘ藥劑ニテ硫酸麻偏涇矢亞合劑嘔吐ニハ氷片或ハ沸騰散虛脫ニ陥ルモノニハ依的兒樟腦ヲ用ヒ心悸亢進スルモノニハ心部ニ氷囊ヲ貼シ談話ヲ避ケ身體ヲシテ極メテ安靜ナラシムヘシ

處方

稀鹽酸

一〇

硫酸麻偏涇矢亞

二〇〇乃至三〇〇

橙皮丁幾

四〇

薄荷水

一〇〇

單舍利別

適宜

水 二〇〇〇

右一日三回宛二日ニ分服ス

間歇熱

原因 「バチルス」マラリチニシテ「アノフェレス」蚊ノ一種ニヨリテ傳搬セラル營養不良精神過勞感冒ハ誘因トナルナリ

症候 熱發作ニ定期アリ二十四時間毎ニ來ルモノヲ毎日熱ト云ヒ四十八時毎ニ來ルモノヲ隔日熱ト云フ七十二時毎ニ來ルモノヲ四日熱ト云フ一回ノ發作ヲ三期ニ分ツ

(一) 惡寒期 皮膚厥冷シテ青色ヲ呈シ咬牙戰慄ス體溫三十九度乃至四十一度ニ達シ脈搏百乃至百二十次トナリ一二時間持續ス

(二) 發熱期 皮膚紅色ヲ潮シ灼熱ノ感覺頭痛煩渴引飲體溫四十一度以上ニ達ス此期三時乃至五時間ナリ

(三) 發汗期 發汗淋漓諸症退キ體溫常ニ復ス以上三期ノ全發作時間ハ平均八時乃至十二時間ナリ

治法 泥瘴地ヲ乾涸セシメ或ハ常ニ水ヲ充滿セシムルカ或ハ泥瘴地ヲ避ケ專ラ攝生ヲ守ラシメ鹽酸規尼涅ヲ服用セシムヘシ

處方

(一) 鹽酸規尼涅

〇五

右九トシ頓服(發作ノ六時間前ニ服用セシム)

(二) 稀鹽酸

一〇〇

葡萄酒

二〇〇

單舍利別

適宜

水

二〇〇〇

右一日頻回分服

### 呼吸器病

#### 鼻腔出血

原因 頭部充血、心臟病、急性熱性病、月經異常ヨリ來リ又鼻部ノ打撲ニ起因スルモノナリ

症候 多クハ前鼻孔ヨリ流出スルモノニシテ劇シキトキハ眩暈ヲ起シ卒倒ス

治法 輕症ハ局部ノ冷罨法、氷罨法ヲ行フトキハ大抵止血スルモノナリ大出血ニアリテハ身體ヲ安保シ格魯兒化鐵液ニ蘸セル「タンボン」ヲ以テ前後ノ鼻孔ヲ填塞スヘシ後鼻孔ニ挿入スルニヘルロック氏管ヲ



用ユ

急性鼻加答兒 (感冒)

原因 流行性感胃或ハ寒氣又ハ刺戟物ノ爲ニ起因スルナリ  
症候 頭痛鼻内癢痒疼痛灼熱ノ感覺アリテ噴嚏ヲ發シ體溫昇騰ス分  
泌物ハ初メ粘液性ナルモ後チ膿様ニ變シ粘膜腫脹シテ鼻腔閉塞ス小  
兒ハ之カ爲ニ呼吸困難ヲ起ス

治法 溫保シテ臥床ニアラシメ内服ニハ醋酸アンモニヤヲ與ヘ石炭  
酸アンモニヤ水ノ合劑ヲ嗅カシメ體溫高キトキハ下熱劑ヲ頓服セシ  
ムヘシ

處方

- (一) 醋酸アンモニヤ 二〇〇乃至三〇〇
- 甘硝石精 三〇
- 橙皮舍利別 一〇〇
- 水 二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服ス

(二) 石炭酸強安母尼亞水酒精 各五〇

右密栓シテ貯ヘ布片ニ點滴シテ嗅カシム

急性喉頭加答兒

原因 寒胃有害瓦斯過度ノ談話傳染性熱性病ノ分症トナルカ又ハ鼻  
咽頭炎ノ波及スルニ起因ス

症候 喉頭ニ粗糙癢痒灼熱ノ感輕キ疼痛ヲ發シ聲音啞嘶嚥下困難ト  
ナリ咳嗽ヲ發ス分泌物ハ漸々減少粘靱トナリ後ニ増量シテ咯出シ易  
キニ至ルモノナリ

治法 談話喫烟酒酒精冷飲ヲ禁シ頸圍ニ冷卷法ヲ施シ渴アルモノニハ  
溫牛乳ヲ與フルノ他左ノ藥劑ヲ用ユヘシ

處方

- (一) 重碳酸曹達 三〇乃至五〇
- 杏仁水 六〇乃至八〇

單舍利別

一〇〇

水

二〇〇〇

右一日三回ツ、二日ニ分服ス

(二) 挖氏散

〇、五

乳糖

一〇

右散二包ニ分チ咳嗽甚シキトキ頓服セシム

急性氣管枝炎

原因 急性喉頭炎ト同一ナリ

症候 惡寒、全身倦怠、數脈發熱ヲ以テ起リ、咳嗽頻發、咯痰困難ナレトモ、後ニハ容易トナルモノナリ、氣管枝ニ笛聲又ハ大小水泡音ヲ聽取ス  
治法 室内ヲ溫保シ、臥床ニアラシメ、粘滑飲料ヲ與ヘ、左ノ處方ヲ投ス  
發熱時ニハ撒里智爾酸曹達、咳嗽頻發時ニハ挖氏散ヲ用ユヘシ

處方

(一) 攝涅瓦煎

(六、〇乃至八、〇)二〇〇〇

重碳酸曹達

四、〇乃至五、〇

杏仁水

六、〇乃至一〇、〇

單舍利別

一〇〇

右一日三回ツ、二日ニ分服ス

(二) 撒里智爾酸曹達

〇、五乃至一、〇

右一包トス、微溫湯ニ溶解頓服

喘息

原因 細小氣管枝ニ於ケル筋肉ノ強直性痙攣ニ由テ發起スルモノニシテ、消化器、鼻腔ノ疾患ヨリ反射的ニ喚起スルコトアリ  
症候 其發作ハ卒然ニ起リ、或ハ全身倦怠、喉頭、胃窩ニ異常ノ感覺アリテ起ル、而シテ呼吸短息トナリ、呼吸困難甚シク、顔面、口唇等蒼青色ヲ呈シ、兩息共ニ延長シ、笛聲ヲ放チ、副呼吸筋ヲ使用ス、咯痰ハ黃色若クハ綠黃色ニシテ、發作ノ持續ハ一二時間ヨリ數週ニ至ル間歇時ニハ更ニ認ムヘキ症狀ナシ

治法 專ラ原因トナルヘキモノヲ除カサルヘカラス發作時ニハ抱水格魯維兒臭素加里等ヲ内服セシメ胸部脾胃部ニ芥子泥ヲ貼スヘシ

處方

(一) 臭素加里

四〇乃至八〇

杏仁水

六〇乃至一〇〇

橙皮舍利別

適宜

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服

(二) 抱水格魯維兒

一〇

臭素加里

一〇

單舍利別

一〇〇

水

三〇〇

右發作時ニ頓服

咯血

原因 多ク血管壁ノ變性ヨリ起ルモノニシテ肺勞素質及ヒ肺勞肺結核ニ見ル其他婦人ニ於テハ稀ニ月經ノ代償性ニ來ルコトアリ  
症候 初メ胸内ニ溫感アリテ液體ノ上昇スルノ感ヲ覺ヘ次テ咳嗽ヲ發シ咯血シ(鮮紅ニシテ泡沫ヲ混ス二三口ノ後チ體溫昇騰シ胸痛ヲ發スルモノアリ

治法 安靜ヲ主トシ胸部ニ氷囊ヲ貼ス食鹽水ヲ多量ニ飲用セシムヘシ咳嗽頻發スルトキハ挖氏散ヲ頓服セシメ阿片劑ヲ内服セシム

處方

(一) 醋酸鉛

〇〇五乃至〇一五

阿片末

〇〇五乃至〇一五

乳糖

三〇

右六包トナシ一日三回二日ノ量

(二) 明礬

一〇

挖氏散

〇三

乳糖

二〇〇

右六包トナシ一日三回二日ノ量

肋膜炎

原因 寒胃ヨリ特發シ其他近接部ノ疾患又ハ外傷ヨリ發ス  
症候 惡寒發熱シ乳房ノ外下部ニ疼痛ヲ發シ乾咳呼吸淺表頻數トナ  
リ脈搏緊張減退便秘尿量減少身體著シク羸瘦ス

治法 呼吸困難及ヒ胸痛ニハ芥子泥或ハ乾角ヲ貼シ又ハ氷卷法温卷  
法ヲ行ヒ撒里質爾酸曹達アスピリン醋酸加里等ヲ内服セシム

處方

(一) アスピリン 二、五乃至四、〇  
乳糖 三、〇

右六包ニ分チ一日三回每一包ツ、二日ニ分服

(二) 撒里質爾酸曹達 三、〇乃至五、〇  
重碳酸曹達 三、〇乃至四、〇

薄荷水

一〇〇

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服

(三) 醋酸加里

五、〇乃至八、〇

橙皮舍利別

適宜

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服

消化器病

加答兒性口内炎

原因 急性症ハ寒胃又ハ外物ノ刺戟例之熱物冷物齒生困難齒石ノ集  
積齒牙ノ尖端創傷其他腐敗物藥物ノ誤用ヨリ發ス  
慢性症ハ胃腸肺喉頭氣管ノ諸病ヨリ發スルモノナリ  
症候 口内微痛アリテ食味變常シ粘膜ハ赤色或ハ暗黑色ニシテ舌苔  
ヲ被ムリ唾液ノ分泌顯多ナリ

治法 原因療法ヲ專一トス急性症ニハ緩下劑清涼劑含嗽劑ヲ與フ慢性症ニハ五十倍ノ鹽酸加里水四百倍ノ過錳俺酸加里水二百倍ノ明礬溶液ヲ含嗽セシメ又ハ三十倍ノ硝酸銀溶液二十倍ノ單寧酸溶液ノ塗擦ヲ施ス

急性咽頭加答兒

原因 寒胃喫煙飲酒又ハ珉穢物其他近隣部ノ炎症中毒等ヨリ來ルモノナリ

症候 中等ノ發熱アリテ咽頭ニ微痛ヲ發シ殊ニ嚥下時ニ甚シク不快ノ感覺ヲ呈ス粘膜赤色ヲ帶ヒ扁桃腺ニ白色ノ沈着物ヲ認ム

治法 頸圍ヲ溫包シ氷片ヲ含マシメ五十倍乃至百倍ノ鹽酸加里水二百倍ノ明礬水ノ含嗽撒里質爾酸曹達又ハ醋酸アンモニアヲ内服セシメ咽頭ニハ硝酸銀水ヲ塗布スヘシ

處方

(一) 醋酸アンモニヤ 二〇〇乃至三〇〇

橙皮舍利別

適宜

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服

甘硝石精三〇乃至四〇ヲ加フルコトアリ

(二) 撒里質爾酸曹達

三〇乃至四〇

橙皮丁幾

四〇

薄荷水

一〇〇

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服

(三) 三十倍硝酸銀水

右咽頭塗布

扁桃腺炎

原因 咽頭炎ニ同一ナリト雖トモ春秋ニ流行スルコトアリ  
症候 惡寒發熱頭痛ヲ發ス咀嚼及ヒ嚥下困難トナリ疼痛ヲ發ス殊ニ

談話開口時ニ甚シ聲音ハ變シテ鼻聲ヲ帶ヒ扁桃腺腫大シテ赤色ヲ呈ス  
 治法 頸圍ヲ溫包シ冷水氷片ヲ含マシメ又ハ氷冠法ヲ施シ全身溫包  
 シ頸部ニ水蛭ヲ貼シ藥劑等ハ咽頭炎ニ同一ナリ

### 吐血

原因 慢性胃ノ疾患又ハ肝肺ノ疾患ヨリ來ルモノナリ  
 症候 吐血ハ暗赤色ニシテ食物ノ殘片ヲ混シ酸性反應ヲ呈ス胃部壓  
 重溫暖ノ感アリ惡心嘔氣ヲ催ス多量ナルトキハ虛脱ニ陥リ皮膚厥冷  
 蒼白ヲ呈ス

治法 安靜ニ臥セシメ氷片ヲ與ヘ胃部ニ氷囊ヲ貼シ出血止ミタル後ニ  
 少量ノ流動淡泊ノ滋養物ヲ與フ虛脱ニ陥ルモノニハ興奮劑ヲ投スヘシ

處方

- 明礬 四〇
- 阿片末 一〇
- 乳糖 二〇

右散四包ト爲ス毎四時一包ヲ與フ

### 消化不良

原因 胃加答兒貧血萎黃病、腺病、密尿病、熱病、暴飲食、麻醉藥誤用等ヨリ  
 起ル

症候 胃部膨滿、食思缺損、全身倦怠、頭痛、舌苔、吞酸、噯氣、腹鳴、下痢、便秘、不  
 眠、精神沈鬱ヲ發ス

治法 暴飲食ニ由テ起ルモノニハ吐劑下劑ヲ投シ蛋白ノ食物ヲ與ヘ  
 其他消化シ易キ者即チ牛乳、鶏卵、肉羹汁、鳥肉、新鮮ノ魚肉ヲ與フ

處方

- (一) 稀鹽酸 一〇
- 苦味丁幾 四〇
- 單舍利別 適宜
- 水 二〇〇〇

右一日三四回ニ分服ス(毎食前)

(二) 重碳酸曹達

苦味丁幾

橙皮舍利別

水

四〇

四〇

適宜

二〇〇〇

右一日三四二分服ス

急性胃加答兒

原因 特發ハ貧血營養不給感冒不消化物腐敗食餌冷水酒精ノ多飲刺戟性藥物或ハ砒石吐酒石ノ中毒其他傳染性ノ疾患及ヒ慢性ノ疾患ヨリ發ス

症候 食機缺乏シ食品ノ好嫌ヲ起ス胃部ノ壓重或ハ鈍痛シ嘔氣アリ頭痛眩暈呑酸噯氣ヲ催シ唾液分泌旺盛シ舌上蒼白ノ苔ヲ被リ口内臭氣ヲ放ツモノナリ

治法 絶食法ヲ施シ或ハ少量ノ牛乳粥汁等ヲ與ヘ内服ニハ曹達水里母那埵ヲ投ス食物胃中ニ停滯スルモノハ吐瀉腸中ニアルモノニハ下

劑ヲ與フヘシ

處方

(一) 鹽酸里母那埵

右一日三四二分服

二〇〇〇

(二) 曹達水(沸騰散水)

橙皮舍利別

右一日三四二分服

二〇〇〇

適宜

(三) 次硝酸蒼鉛

乳糖

右爲六包一日三包二分服

二〇乃至三〇

三〇

(四) ヒマシ油

一回頓服

一五〇

(五) 甘汞

乳糖

〇五

〇五

(二) 重碳酸曹達

苦味丁幾

橙皮舍利別

水

四〇

四〇

適宜

二〇〇〇

右一日三回二日分服ス

急性胃加答兒

原因 特發ハ貧血營養不給感冒不消化物腐敗食餌冷水酒精ノ多飲刺戟性藥物或ハ砒石吐酒石ノ中毒其他傳染性ノ疾患及ヒ慢性ノ疾患ヨリ發ス

症候 食機缺乏シ食品ノ好嫌ヲ起ス胃部ノ壓重或ハ鈍痛シ嘔氣アリ頭痛眩暈呑酸噯氣ヲ催シ唾液分泌旺盛シ舌上蒼白ノ苔ヲ被リ口内臭氣ヲ放ツモノナリ

治法 絶食法ヲ施シ或ハ少量ノ牛乳粥汁等ヲ與ヘ内服ニハ曹達水里母那埵ヲ投ス食物胃中ニ停滯スルモノハ吐劑腸中ニアルモノニハ下

劑ヲ與フヘシ

處方

(一) 鹽酸里母那埵

右一日三回二日分服

二〇〇〇

(二) 曹達水(沸騰散水)

橙皮舍利別

右一日三回二日分服

二〇〇〇

適宜

(三) 次硝酸蒼鉛

乳糖

右爲六包一日三包二日分服

二〇乃至三〇

三〇

(四) ヒマシ油

一回頓服

一五〇

(五) 乳糖

乳糖

〇五

〇五



一包トス頓服

胃痛

原因 酸敗液、刺激性ノ飲食、食物寒胃、其他貧血、生殖器病ヨリ來ルモノナリ  
症候 痙攣性ニシテ一種ノ痛、灼切、立錐様發シ、大苦惱ノ狀ヲ呈シ、甚シ  
キハ人事不省トナルコトアリ

治法 食物胃中ニアレハ吐出セシメ、芥子泥ヲ貼シ、或ハ溫卷法ヲ施シ  
次硝酸蒼鉛、重碳酸曹達ノ合劑等投與スヘシ

處方

次硝酸蒼鉛

一〇乃至二〇

重碳酸曹達

一〇乃至二〇

右三包トス一日三回ニ服用

但シ疼痛持續スルトキハ阿片末〇〇五ヲ加フ

盲腸炎

原因 糞便ノ蓄積、不消化物、魚骨、菓實ノ種子、腸石、寒胃等ヨリ發ス

症候 初メ食慾缺乏シ、久シク便秘ス、或ハ下痢ト便秘ト交換シテ發シ

盲腸部ニ痙攣様ノ疼痛アリ、盲腸部ニ硬結物ヲ觸知スヘシ

治法 糞便又ハ異物ノ蓄積ニ因スルモノハ下劑ヲ與フルカ、又ハ灌腸

シ、局部ニ灰白水銀軟骨ヲ貼シ、氷嚢ヲ置キ、阿片合劑ヲ與ヘ、流動滋養食

ヲ取ラシメテ身體ヲ安靜ナラシムヘシ

處方

(一) ヒマシ油

一五〇乃至二〇〇

頓服

(二) 糖

〇、五

乳

〇、五

一包トス頓服

(三) 阿片末

〇、一乃至〇、二

糖

三〇

右六包トス一日三回二日分服

(四) 硫酸麻偏涅矢亞

三〇〇

煮沸冷却水

五〇〇〇

右灌腸料

痔核

原因 糞便ノ蓄積辛辣物飲食過飲其他肺肝ノ疾病ヨリ發起スルモノナリ

症候 肛門ノ内外ニ結節ヲ認ム便通ノ際肛門外ニ押出セラルル鈕瘻セラルトキハ刺痛ヲ發シ還納スレハ緩解ス又々痔血ヲ起ス其出血屢々反復シテ多量ナルトキハ貧血ヲ呈ス

治法 淡白ノ食餌ヲ與ヘ酒類辛辣物ヲ禁ス脱出シタルモノニハ油ヲ塗り還納スヘシ局部ニ水蛭水糞ヲ貼シ糞便ヲ自然ニ軟利セシムヘシ

處方

重酒石酸加里

三〇乃至五〇

硫黃華

三〇乃至五〇

右六包トス一日三回二日分服

但シ快通ヲ得タル後ハ中止スヘシ

疝痛又腹痛

原因 不良ノ食物未熟ノ菓物刺戟性食物蓄便瓦斯蓄積寄生虫其他ノ疾患ヨリ來ルモノナリ

症候 發作性ノ痛ヲ發シ灼熱多クハ盲腸臍部ヨリ四方ニ放散シ發作時裏急後重又ハ惡心嘔吐ヲ發シ呼吸困難顔面苦惱ノ狀ヲ呈シ四肢厥冷尿閉人事不省トナルコトアリ

治法 汚物停滯スルトキハ吐出セシムルカ又ハ下劑ヲ與ヘ又ハ灌腸ヲ施行ス内服ニハ旃那葉煎劑薄荷等ヲ投スヘシ

處方

(一) 旃那葉煎

(五〇乃至七〇) 二〇〇〇

重碳酸曹達

四〇

單舍利別

適宜

右一日三回二日ニ分服(便秘)

(二) 重碳酸曹達

四〇

薄荷水

二〇〇

橙皮舍利別

適宜

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服(瓦斯蓄積)

(三) 阿片末

〇・一

乳糖

一・五

右三包トス發作時一包ヲ與フ

下痢

原因 腸管ノ疾患、下腹ノ鬱血、氣候變換、寒胃或ハ藥物ノ刺戟等ヨリ來ルモノナリ

症候 腹部ニ雷鳴アリテ多少疼痛ヲ發シ屢々稀薄ノ糞便ヲ泄シ或ハ頻リニ便意ヲ催ス食慾缺乏、舌上白苔ヲ被リ四肢倦怠シ稀ニ發熱スル

コトアリ

治法 專ラ原因療法ヲ行ヒ阿片合劑ヲ與フ若シ腸管内異常醱酵ニ依リ下痢スルトキハ甘朮下劑ヲ投シ排泄セシムヘシ

處方

(一) 阿片末

〇・〇六

明 礬

一〇

乳 糖

四〇

右六包トス一日三回二日量

(二) 陀氏散

〇・五乃至一〇

乳 糖

三〇

右六包トス一日三回二日量

(三) 阿片丁幾

一〇

阿仙藥丁幾

五〇

單舍利別

適宜

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服

便秘

原因 腸管ノ弛緩、身體運動不充分、糞便蓄積、滋味ノ飲食物收斂劑ノ内服、其他腦脊髓ノ疾患ヨリ來因スルモノナリ

症候 食慾缺乏、舌上白苔ヲ被リ、食味變常、吞酸、暖氣、嘔吐、惡心、嘔吐、頭痛、眩暈ヲ發シ、大便硬固ニシテ通利ノ困難アリ

治法 野菜果物、淡白ノ肉食、牛乳多量ノ液類運動、散步ヲ命シ、腹部ノ按摩ヲ行フ、常習便秘ニハ鹽類下劑、糞便蓄積ニハ、コロシントヒヨスエキス丸ヲ與フヘシ

處方

(一) 稀鹽酸

一〇

硫酸麻痺濕矢亞

一五〇乃至三〇〇

橙皮舍利別

適宜

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服

(二) 旃那葉煎

(五〇乃至八〇)二〇〇〇

重碳酸曹達

五〇

橙皮舍利別

適宜

右一日三回二日ニ分服

(三) 格魯魯篤篤比沃斯幾斯丸

一回一粒乃至三粒

(四) 葯刺巴末

〇五

乳糖

〇五

一包トス頓服

縱蟲

原因 糞虫ハ獸鳥肉中ニ存ス故ニ此等ノ肉類ヲ生食或ハ半熟ヲ食スルヨリ起ルモノナリ

症候 間々下腹ニ不快ノ感覺アリテ疝痛様ノ疼痛ヲ發シ食慾變常等種々ナル症狀ヲ呈スルコトアリ縲虫片ヲ發見スレハ診斷確實ナリ

治法 二三日間減食セシメテ驅虫劑ヲ投與スヘシ

處方

石榴根皮 五〇〇乃至一〇〇〇

水 一〇〇〇〇

右浸漬スルコト十二時乃至二十四時間更ニ煎シテ半量トナシ酒製綿馬幾斯一〇乃至二〇ヲ和ス右三分シテ一分ヲ空腹時ニ用ヒ尙ホ半時間ヲ經テ一分ヲ服セシメ尙ホ又半時ヲ經テ鹽類下劑ヲ與フヘシ三分ノ一ハ備ヘ置クヘシ(何ントナレハ一二回用ヒテ吐出スルコトアレハナリ)

硫酸麻屈涅矢亞 一〇〇乃至一五〇

橙皮舍利別 適宜

水 一〇〇〇

蛔虫

右一回頓服セシム(下劑)

原因 野菜果物ヲ食シ或ハ廁ニ近キ井水河水ヲ飲用スルヨリ發生スルモノナリ

症候 消化不良、唾液分泌充進シ腹痛又ハ腹部膨滿、前額疼痛、不眠、瞳孔散大、鼻腔癢痒、熱候、痙攣、搐搦ヲ發ス

治法 珊篤尼涅ヲ與フヘシ

處方

珊篤尼涅 〇、一乃至〇、二

乳糖 二〇

右四包トス朝夕一包ツ、服用セシムヘシ

黃胆

原因 胃十二指腸ノ疾患ヨリ繼發シ其他感冒、胆石等ニ由テ發ス

症候 食慾缺乏、口渴、胃部壓重、惡心、噯氣、嘔吐、頭痛、眩暈、便秘ヲ發シ漸々

眼球結膜全身皮膚黄色ヲ呈ス癢痒ヲ覺ヘ大便灰白又ハ淡黄色トナリ  
尿ハ暗色ニシテ胆汁色素ヲ含有ス

治法 原因療法ヲ主トス淡白ノ食餌殊ニ脂肪分少キモノヲ與ヘ藥劑  
ニハ重碳酸曹達、大黃鹽類下劑等ヲ服用セシムヘシ

處方

(一)重碳酸曹達

四、〇乃至六、〇

大黃末

〇、五乃至一、〇

乳糖

三、〇

右六包トス一日三回二日量

(二)稀鹽酸

一、〇

硫酸麻偏濕矢亞

二、〇、〇乃至三、〇、〇

橙皮舍利別

適宜

水

二、〇〇、〇

右一日三回二日ニ分服ス

胆石痛

原因 胆石ニ起因ス胆石ハ美食スル者石灰分ヲ含有スル飲食物ヲ多  
量ニ食スル者ニ發生ス

症候 食後、全身運動、精神感動、腹部壓迫等ニ依リテ發作狀ニ來ル其發  
作ハ大抵二三時間ナリ而シテ黃胆、便秘、肝痛ヲ發ス稀ニハ體溫昇騰、脈  
頻數、腹部攣急、大苦惱狀、四肢厥冷、冷汗ヲ流シ譫語ヲ發スルコトアリ

治法 發作時ニハ阿片ヲ與ヘ虛脫ニハ興奮劑ヲ投スルノ他曹達水ヲ  
多量ニ服用セシム左記ノ藥劑ヲ內服セシム

處方

(一)阿片末

〇、〇五

乳糖

〇、五

一包トス頓服(發作時)

(二)重碳酸曹達

四、〇乃至五、〇

阿片末

〇、一乃至〇、二

乳糖

三〇

右六包トス一日三回二日ニ分服

(三) 稀鹽酸

一〇

硫酸麻痺涅矢亞

一五〇乃至二〇〇

橙皮舍利別

適宜

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服ス

全身病

急性關節僂麻質斯

原因 分裂微菌ニシテ遺傳性ニ來リ寒胃ハ誘因トナル  
症候 不規則ノ發熱深褐色ノ尿酸臭ヲ帶フ發汗關節痲痺ニ膝肘關節  
ノ赤腫劇痛運動障害波動經過二三週ヨリ十二週以上ニ達ス  
治法 室内ノ換氣ヲ行ヒ攝氏ノ十九度ヲ保タシメ内服ニハ撒里質爾  
酸曹達ヲ與ヘ局處ニハ石炭酸水ノ濕布繙帶ヲ行フカ又ハイヒチオ

ルヲ塗布温包スヘシ

處方

撒里質爾酸曹達

三〇乃至五〇

重碳酸曹達

二〇乃至四〇

薄荷水

一〇〇

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服ス

筋僂麻質斯

原因 多クハ急慢關節僂麻質斯ニ併發ス

症候 一筋或ハ數筋ニ游走スル筋ノ疼痛ヲ發ス

失荷兒倍屈

原因 新鮮ノ蔬菜缺乏ヨリ起ルモノニシテ不潔ノ空氣不良ノ飲水冷  
濕ノ居住精神抑鬱長途航海ノ如キハ之レヲ催進セシムルモノナリ  
症候 身體倦怠ヲ覺ヘ外貌憔悴シ一二週後皮膚ニ粟大乃至一圓銀

貨大ノ出血性血斑ヲ發シ皮膚ハ鉛色トナリ僅カニ動作スレハ疲勞ス  
齒齦ハ軟弱腫起シテ青色ヲ呈シ出血シ易ク齒牙動搖シ或ハ脱落ス重  
症ニ在テハ關節骨質及ヒ體腔ニ出血ス經過緩慢ナリ  
治法 新鮮ノ蔬菜及ヒ酸味ヲ有スル果實(蜜柑、橙、李等)ヲ與ヘ口内惡臭  
ヲ發スル者ニハ鹽酸加里水ヲ含嗽セシメ齒齦ニハ硝酸銀ヲ以テ腐蝕  
スヘシ

處方

結晶枸橼酸

一〇

枸橼油糖

五〇

水

二五〇〇

右毎二時一食匙宛

神經系病

腦充血

原因 熱候昇騰、酒精過飲、精神興奮其他ノ疾患ニヨリテ發ス

症候 前額ニ熱ヲ覺ヘ眼結膜赤色、顔面潮紅、脈搏數硬且ツ實、頭痛、眩暈、  
耳鳴、譫語、彼此ノ筋搖蕩シ甚シキハ全身痙攣ス又之レニ反シ精神昏愡  
卒中症狀ヲ呈スルコトアリ  
治法 輕症ハ頭部ニ氷囊ヲ貼シ鹽類下劑ヲ與ヘ坐浴ヲ命ス重症ニア  
リテハ顳額部ニ水蛭五條乃至二十條ヲ貼シ心部ニ氷囊ヲ置キ左記ノ  
藥劑ヲ内服セシム又常習性ノモノニハ下劑ヲ投ス

處方

(一) 稀鹽酸 一〇  
 硫酸麻痺涅矢亞 二〇〇乃至三〇〇  
 橙皮舍利別 適宜  
 水 二〇〇〇  
 右一日三回二日ニ分服ス

(二) 甘汞 〇.五  
 葯刺巴未 〇.五



右一包トス頓服(下劑)

腦貧血

原因 恐怖身體過勞、非常ノ脱汗慢性ノ下痢出血等ニヨリテ發起ス  
症候 耳鳴、顔面蒼白、脱汗、洗耳シテ斃ル、アリ、或ハ漸々ニ發スルコト  
アリ即チ眼結膜炎、齒齦炎ヲ發シ顔面蒼白、歩行困難、譫語ヲ發ス

治法 卒倒スルトキハ身體ヲ安臥セシメ頭部ヲ低ク胸部ニ冷水ヲ灌  
キ、ブランドー葡萄酒等ヲ與フ滋養品ヲ給ス慢性ナルモノニハ鐵劑ヲ  
内服セシムヘシ

腦出血

原因 腦血管ノ糜粥樣變性、亞爾簡保兒濫用、外傷其他慢性疾患ノ爲ニ  
來ルモノナリ

症候 頭痛、眩暈、搖蕩ヲ發シ次テ失神シテ卒倒シ知覺運動ノ麻痺ヲ反  
對側ニ來ス五管モ作用ヲ失ヒ呼吸ハ緩慢ニシテ鼻聲ヲ伴ヒ口圍筋鼻  
翼筋ノ麻痺ヲ來シ呼吸時ニ出沒ス又唾液流出シ手足麻痺シテ運動セ

ス卒倒シテ一定時ヲ經、幸ニ精神再ヒ故ニ復スルモ麻痺ハ依然トシテ  
存ス二三年間ニ發作ヲ來スコトアリ  
治法 患者強壯ニシテ脈膊牢實ナルモノニハ多量ノ瀉血ヲ要ス耳ニ  
水蛭ヲ貼シ同時ニ頭部ニ氷嚢ヲ置キ下劑ヲ投シ芥子脚浴、芥子泥ヲ下  
肢ニ貼ス又頂部ニ發泡膏ヲ貼附スヘシ衰憊スルモノニハ興奮劑ヲ投  
スヘシ又灌腸ヲ行フ

處方

(一) 臭素加里 四〇乃至八〇

硫酸麻偏濕矢亞 二〇〇乃至三〇〇

橙皮舍利別 適宜

水 二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服ス

(二) 甘汞 〇、五

藥刺巴未 〇、五

### 神經痛

右一包ト爲ス頓服

原因 神經素性血族ノ者ニ多シ暴酒勞役瘴病毒、傷麻質斯、胃病、季候ノ變換又其他ノ疾患ヨリ來ルモノナリ

症候 卒然トシテ神經ノ徑路及ヒ末梢ニ放散スル劇痛ヲ覺ヘ知覺過敏ヲ兼又痙攣搖擗ヲ起ス發作ハ若干時間ヨリ數時間稽留ス

治法 局部ヲ溫保スルカ又ハ氷囊ヲ貼シ臭素加里抱水格魯羅爾ヲ內服セシム若シ瘴病毒ニ因スルモノナレハ鹽酸規尼涅ヲ用ユ其他原因療法ヲ行フヲ良トス

#### 處方

(一) 臭素加里

三〇乃至五〇

橙皮舍利別

適宜

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服ス

(二) 抱水格魯羅爾

一〇

單舍利別

適宜

水

二〇〇

右一回頓服(疼痛時)

(三) 鹽酸規尼涅

〇三乃至〇八

右九ト爲ス發作時六時間前ニ頓服セシム

### 破傷風

原因 寒胃冷氣室ノ睡眠寒溫ノ驟變外傷殊ニ手足「ストリキニーネ」ヲルチオン」ノ中毒ニ來ルモノナリ

症候 惡寒戰慄頸部疼痛嚙下困難頭首及ヒ咀嚼筋攣急牙關緊張以テ體軀ノ諸筋收縮ヲ始メ之レニ觸ルレハ硬固トナリ(全身中痙攣體部ニ甚シク四肢ニ於テハ甚シカラス)呼吸困難甚シク脫汗シ恐怖顛倒スレハ呼吸止ム死期體溫四十二度乃至四十四度ニ達スルコトアリ

治法 脊推部ニ氷囊發泡膏ヲ貼シ抱水格魯羅爾臭素加里ヲ內服セシ

ムヘシ

處方

抱水格魯羅爾

三〇乃至五〇

臭素加里

六〇乃至一〇〇

橙皮舍利別

適宜

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服ス

癲癇

原因 遺傳性ニ來リ精神過勞等ハ誘因トナル  
 症候 卒然全身痙攣ノ發作ヲ來ス而シテ其發作時ハ通常人事不省ト  
 ナリ神識知覺ヲ失ヒ全身ノ筋強直ヲ起シ眼ヲ開キ殆ント假死ノ狀ヲ  
 呈シ呼吸不利、口邊泡ヲ噴キ唇ヲ齒ノ間ニ咬ミ出血スルアリ發作中ハ  
 知覺全クナク劇甚ナルトキハ反射作用モ缺如スルニ至ル而シテ漸時  
 退緩期トナリ始メテ醒覺シ頭痛頭部壓重等ヲ殘ス一回發作終ルノ後

數週間ヲ經テ再ヒ來ル發作ノ時間ハ二分乃至十分間稀ニハ半時間ニ  
 至ルコトアリ

治法 豫防法ヲ第一トス屢々神經性ノ兩親ヨリ素因ヲ遺傳スルヲ以  
 テ其滋養法及ヒ生育法ニ注意シ健康ナラシメサル可カラズ藥劑トシ  
 テハ臭素加里ヲ内服セシムヘシ

處方

臭素加里

四〇乃至八〇

橙皮舍利別

適宜

水

二〇〇〇

右一日三回二日ニ分服ス

神經性心悸亢進

原因 歇私的里依ト昆埤兒萎黃病貧血酒精及ヒ煙草ノ過用手淫脚氣  
 等ヨリ起ルモノナリ  
 症候 心悸動強盛ニシテ不正トナリ胸内緊迫苦悶呼吸促迫眩暈一二

時間ヲ發ス

治法 身體ヲ安靜ニシ心部ニ氷囊ヲ貼シ鹽酸里母那埤沸騰散臭素加里等ヲ内服セシムヘシ原因ト認ムヘキモノハ飲用ヲ禁スヘシ

### 船暈

原因 船舶ノ動搖ハ頭部ノ動脈收縮ヲ促カシ爲ニ腦髓ノ急性貧血ヲ惹起スルモノニシテ此局部ノ貧血ハ他ノ機會ニ於ケルト同様惡心嘔吐ヲ起ス此現象ヲ稱シテ船暈ト言フ嘔吐ニ因テ起ル急激ナル腹壓ノ動作ハ忽チ大量ノ血液ヲ腦髓ニ送り腦ノ貧血及ヒ貧血症狀ヲ去リ直チニ之ニ供フ不快ノ感覺ヲ治ス此嘔吐ハ胃ノ空虚充滿ニ關セス發起スルモノナリ腦髓ニ血液ノ輸送ヲ容易ナラシムル方法ハ凡テ船暈病ニ向テ豫防的緩解及ヒ治療的作用ヲ有ス

療法 臭剎安知必林等ヲ用ユ

## 藥物

### 第一章 藥品

#### 薄荷油(メンタ油)

性狀 澄明無色或ハ淡黄色ノ揮發油ニシテ特異ノ香氣ヲ放チ水ニハ僅カニ溶解シ酒精ニハ容易ニ溶解ス

効用 健胃藥驅風藥トシテ用ユ又興奮藥トシテ應用ス一回一滴乃至三滴ヲ與フ

#### 蓖麻子油(カストル油)(リチネ油)

性狀 澄明微黄色濃厚ノ脂肪油ニシテ一種特異ノ臭氣ヲ有シ味ハ最初緩和ニシテ後チ苛辣ナリ

効用 緩下劑トシテ用ユ大人ニハ一食匙乃至二食匙小兒ニハ一茶匙乃至二茶匙ヲ與フ麥酒咖啡等ニ混シ服用スルヲ可トス

#### 亞麻仁油

性状 本植物ノ種子ヨリ冷壓シテ得タル透明黄色ノ脂肪油ニシテ微  
 カニ特異ノ臭氣ヲ供ヘ緩和ナリ  
 効用 外用ニ灌腸料トナシ或ハ同量ノ石灰水ト混和シ火傷ニ用ユル  
 ノ他内用ニ供スルコトナシ

「カルロン」油

上記セシ亞麻仁油ト石灰水ノ合劑ヲ云フ

効用 火傷ニ用ユ本液ハ濃厚ナル乳樣液ナルヲ以テ麻布ニ延ヘ貼用  
 スルヲ得ヘシ

阿列布油

性状 本植物ノ果實ヨリ冷壓シテ得タル淡黄色ノ脂肪油ニシテ一種  
 特異ノ臭氣ヲ有シ味ハ緩ニシテ敗油性ナラス  
 効用 灌腸料ニ供シ其他等分ノ石灰水ト混シ濃厚ナル乳樣液トナシ  
 「石灰阿列布油」稱シ「火傷」ニ賞用ス又「カテーテル」挿入ノ際滑ナラシメ  
 ン爲メ塗布ス歐米諸國ニ在テハ汎ク食料トナス

肝油

性状 大口魚屬ノ肝臟ヨリ得タル藥黄色或ハ金黄色ノ脂肪油ニシテ  
 特異ノ臭氣ヲ有シ味緩和ニシテ魚味ヲ帶フ比重ハ大約〇・九二五ナリ  
 本品ハ不快敗油性ノ氣味ヲ有スヘカラス  
 効用 本品ハ頗ル吸收セラレ易キ脂肪油ニ屬スルヲ以テ肺病腺病及  
 貧血患者ニ滋養藥トシテ一日一乃至三食匙小兒ニハ一乃至三茶匙ヲ  
 與フルモノトス  
 大氣ニ觸ルハトキハ變敗シ惡臭ヲ發スルヲ以テ成ルヘク密封シテ貯  
 フヘシ

稀鹽酸

性状 鹽酸一分蒸餾水二分ヲ混和シ製シタル透明無色ノ液ナリ  
 効用 清涼消化催進藥トシテ用ユ水劑多クハ里母茶塚トシテ飲料ニ  
 供ス用量一日〇・二グラム乃至〇・六グラムヲ用ユ

沃度丁幾 (劇藥)

性狀 澄明暗赤褐色ノ液ニシテ沃度ノ臭氣ヲ放ツ本品ハ沃度一分ヲ取リ酒精十二分ニ溶解シ製スヘシ

効用 本品ハ内用ニ供スルコト稀ニシテ頑固ノ嘔吐等ニ用ユルコトアリ一日數回一乃至三滴ヲ與フ一回ノ極量ハ〇.二グラムニシテ一日ノ極量ハ一〇グラムナリ又稀ニ慢性頑固ノ咳嗽ニ吸入用トシテ水五〇〇.〇グラムニ沃度丁幾八滴乃至十滴ヲ加ヘ用ユルコトアリ外用トシテ肋膜炎種々ノ關節炎筋腫鼠蹊腺腫等ニ塗布スル等用途頗ル多シ

本品ハ劇藥ニ屬スルヲ以テ密閉シ冷處ニ注意シテ貯フルヲ要ス

**阿片丁幾 (劇藥)**

性狀 澄明赤褐色ノ液ニシテ本品十分中ニ阿片末一分ノ可溶成分ヲ含有ス

効用 鎮痛藥及鎮痙藥トナシ又睡眠ヲ促カスニ用ユ其主ナル効用ハ腸蠕動機能ヲシテ緩慢ナラシメ下痢ヲ制止スルニアリ故ニ下痢腹痛腸加答兒ノ症狀アルモノニ賞用ス一日數回一乃至五滴ヲ與フ鎮痛鎮

痙ノ目的ニハ五滴乃至十滴ヲ頓服セシム

一回ノ極量ハ一瓦半ニシテ一日ノ極量五瓦トス外用ハ齒痛外聽道炎等ノ疼痛ニ用ユルコトアリ

劇藥ニ屬スルヲ以テ注意シテ貯フヘシ

**依的兒性鐵丁幾**

性狀 澄明鮮黄色ノ液ニシテ過格魯兒鐵液一分依的兒二分酒精七分ヨリナルモノニシテ本品百分中ニ一分ノ鐵ヲ含有ス

効用 興奮藥トシテ貧血諸症腦神經衰弱等ニ用ユ一日數回十滴乃至三十滴ヲ與フ冷處ニ密閉シテ貯フヘシ

**苦味丁幾**

性狀 澄明黄色ノ液ナリ

効用 健胃藥トシテ汎ク用キラル一日數回二十滴乃至六十滴ヲ與フ

**薑根丁幾**

性狀 澄明帶黄褐色ノ液ニシテ

効用 健胃藥トシテ一日數回五滴乃至十滴ヲ用ユ

### 芳香安母尼亞精

性狀 澄明微黃色ノ液ニシテ安母尼亞ノ臭氣ヲ放ツ

効用 祛痰藥興奮藥トシテ用ユ四五滴乃至八滴ヲ用ユ或ハ二瓦乃至三瓦ヲ二〇〇〇ノ水劑ニ和シ與フ揮散シ易キカ故ニ密栓シテ冷處ニ貯フヘシ

### 甘硝石精

性狀 無色乃至微黃色澄明ノ液ニシテ佳快依的兒樣ノ香氣ヲ有ス

効用 本品ハ通常興奮及發汗鎮痙利尿藥トシテ一日數回十滴乃至二十滴ヲ單用シ又ハ一日二瓦乃至三瓦ヲ二〇〇瓦ノ水ニ和シ用ユアンチピリン沃度加留謨臭素加留謨及ヒ甘汞ト配伍スヘカラス

### 礮亞精(安母尼亞水)

性狀 澄明無色ノ液ニシテ亞爾加里ノ反應ヲ呈シ竄透性ノ安母尼亞臭ヲ有ス本品中ニ純安母尼亞十%ヲ含有ス

効用 興奮回蘇刺戟腐蝕其他毒虫ノ咬刺傷ニ用ユ回蘇藥トシテ用ユルニハ純粹ノモノヲ嗅入セシメ毒蛇咬傷ノ注入ニハ等分ノ蒸餾水ヲ加ヘタルモノヲ用ユ本品ハ揮發性强ク好ンテ炭酸ヲ吸收スルカ故ニ硝子瓶ニ入レ密封シ冷處ニ貯フヘシ

### 「コロ、ホルム」精

性狀 澄明無色ノ液ニシテ一種特異ノ臭氣ヲ有ス

効用 痲麻質斯神經痛等ニ塗擦劑トナシ又齒痛等ニ用ユ

### 民埜列兒精(醋酸安母尼亞紐謨液)

性狀 透明無色ノ液ニシテ中性或ハ弱酸性ノ反應ヲ微シ焦臭ヲ有セス

効用 發汗藥トシテ應用ス一回二瓦乃至八瓦ヲ與フ

### 依的兒精(忽布滿液)

性狀 無色透明全ク揮發性ノ液ニシテ中性ノ反應ヲ微ス

効用 興奮麻酔鎮痙藥トシテ用ユ内服ニハ一回十滴乃至三十滴ヲ砂

糖水又ハ茶ニ加ヘテ服ス發火シ易キカ故ニ夜間燭火ヲ近ツク可カラ  
ス

### 重碳酸曹達

性狀 白色結晶性ノ團塊或ハ白色結晶性ノ粉末トナシ少シク滋味ヲ  
有シ微ニ亞爾加里性ノ反應ヲ呈ス

効用 制酸健胃又呼吸器粘膜ノ加答兒ニ祛痰劑ニ伍シ或ハ吸入劑ト  
シテ一%乃至二%ノモノヲ用ユ内服ニハ散劑水劑共ニ〇.五瓦乃至二  
瓦ヲ用ユ

### 明礬

性狀 無色透映堅硬ナル正整八面晶或ハ結晶塊ヲナシ其味稍々甘ク  
シテ澁ク酸性ノ反應ヲ徵シ水ニハ溶解スルモ酒精ニハ溶解セス

効用 加答兒性疾患潰瘍性疾患出血等ニ收斂藥トシテ外用ニ供ス

### 骨髀巴拔爾撒母

性狀 帶褐黃色澄明ノ樹脂液ニシテ香氣ハ佳快芳香性ニシテ味ハ稍

々苦ク久シク辛烈ヲ遺ス

効用 淋疾粘液漏等尿道諸器管ノ疾病ニ應用ス通常ハ骨髀膠囊トシ  
テ供用ス膠囊ハ二個乃至六個各個〇.五瓦ヲ包有スルモノ一日一個乃  
至四個ヲ用ユ

### 酒石英(重酒石酸加留謨)

性狀 白色堅硬ノ結晶或ハ白色ノ結晶粉ニシテ氣中ニ於テ變化セス  
酸性ノ反應ヲ呈ス水ニ溶解シ難ク熱湯ニハ稍々溶解シ易ク酒精ニハ  
溶解セス

効用 熱性諸病ニ止渴藥及清涼藥トナシ又ハ利水藥及下劑トシテ應  
用ス一日數回〇.五瓦乃至二瓦ヲ與フ下劑ノ目的ニハ一回二瓦乃至三  
瓦ヲ用ユ

### 瀉利鹽(硫酸麻屈涅矢謨)

性狀 無色稜柱狀ノ小結晶ニシテ其味苦ク能ク水ニ溶解ス  
効用 下劑トシテ多ク費用セラル噸服ニハ一回一〇瓦乃至二〇瓦ヲ



多量ノ水ニ溶解シテ用ユ

「サリチル」酸曹達(楊曹)

性狀 白色無臭ノ鱗屑狀結晶或ハ結晶性ノ粉末ニシテ味ハ甘鹹味ヲ有シ水及ヒ酒精ニ溶解ス

効用 解熱發汗殊ニ痲瘋質斯病ニハ特効ヲ奏ス散藥水藥共ニ不快ノ味ト刺戟性ナルヲ以テ頓服ニハ適セス分服トシ用ユヘシ一日〇六瓦乃至二瓦ヲ用ユ

酒石酸(酒酸)

性狀 無色無臭柱狀ノ結晶ニシテ多クハ層片狀ニ集合シ佳快ナル酸味ヲ有シ能ク水ニ溶解ス

効用 清涼止渴ノ目的ヲ以テ酒石酸里母奈埵トシテ汎ク應用ス而シテ里母奈埵ハ酒石酸五瓦白糖一五瓦枸橼油〇五瓦水二〇〇瓦乃至三〇〇瓦ヲ混和シテ製ス

鹽酸加留謨 (劇藥)

性狀 光澤アル無色ノ小板狀結晶ニシテ中性ノ反應ヲ微シ氣中ニ於テ變化セス水溶液ハ清涼ノ鹹味ヲ有ス

効用 鸛口疔阿布答口臭汞毒性口内炎其他種々ナル口腔咽頭ノ諸病ニ含嗽劑又ハ吸入劑トシテ百倍乃至五十倍ノ溶液ヲ用ユ内用ニハ一日數回其〇〇五瓦乃至〇三瓦ヲ口腔膀胱加答兒胃腸加答兒ニ與フ硫黃木炭其他可燃性有機質ト共ニ摩擦スヘカラス爆烈ヲ招クノ恐レアリ劇藥ニ屬ス注意シテ貯フヘシ

臭素加里

性狀 光澤アル白色骰子形ノ結晶ニシテ氣中ニ於テ變化セス水ニ溶解ス

効用 鎮痲藥及催睡藥トナシ種々ノ神經痛癩癩種々ノ神經亢奮症殊ニ不眠神經衰弱心悸及色慾亢進等ニ應用ス一日三回〇五瓦乃至一瓦ヲ與フ

沃度加里 (劇藥)

性狀 白色乾燥骰子形ノ結晶ニシテ其味苛鹹ニシテ後苦ク水ニ溶解ス其溶液ハ多量ノ沃度ヲ溶解シ又水溶液ニ昇汞ヲ加フルトキハ赤色ノ沈澱ヲ生シ赤色沃度化汞ヲ化生シ此モノ若シ沃度加里液多量ナルトキハ再ヒ溶解スヘシ

効用 内用ニハ梅毒療法腺病性諸症其他甲状腺腫種々ノ腺肥大痛風復麻質斯等ニ一回〇・一瓦乃至〇・五瓦ヲ溶液トシテ用ユ外用ニハ軟膏浴湯吸入劑トシテ腺腫等ニ應用ス

### 硫酸亞鉛 (劇藥)

性狀 無色ノ結晶ニシテ酸性ノ反應ヲ呈シ水ニ溶解シ酒精ニ溶解セス大氣中ニアリテハ徐々ニ風化ス

効用 内用ニハ催吐藥トシテ用ユルコトアリ催吐藥トシテノ極量ハ一瓦ナリ外用ニハ收斂ノ目的ヲ以テ撒布劑塗擦劑トナス又水溶液トナシ淋病ノ注入藥若クハ點眼藥トナス點眼ノ目的ニハ〇・三%乃至〇・五%ノモノヲ用ユ

### 甘汞 (劇藥) (亞格魯兒化汞)

甘汞ハ昇華法ニ由テ製シタルモノニシテ帶黃白色ノ重キ粉末ヲナシ氣中ニ於テ變化セス水酒精依的兒ニ溶解セス

本品ハ安母尼亞水ニ由テ黑色ニ變ス

効用 驅梅下泄利尿又赤痢ニ特效ヲ奏ス利尿藥トシテ一回〇・〇一瓦瀉下藥トシテハ更ニ多量即チ一回〇・五瓦乃至〇・六瓦ヲ用ユ外用ニハ撒布劑及撒眼劑トナシテ應用ス本品ハ劇藥ニ屬ス日光ニ感スルトキハ變質スルカ故ニ黑色ノ瓶ニ容レ密封シ注意シテ貯フヘシ

### 沈降硫黃(硫黃乳)

性狀 本品ハ極メテ微細ナル帶黃白色無晶形ノ粉末ニシテ熱スレハ熔融シ燃燒スレハ藍色ノ火焰ヲ放チ亞硫酸ノ臭氣ヲ發ス水及酒精ニ溶解セス沸騰那篤倫液ニ溶解ス

効用 專ラ下劑トシテ一回一瓦乃至二瓦ヲ與フ亦密封シ日光ヲ避ケ貯フヘシ貯藏宜シキヲ得サルトキハ酸性ヲ呈シ微ニ臭氣ヲ發スルニ

至ル

「ドール」氏散 (劇藥) (阿片吐根散)

性狀 帶褐色ノ粉末ニシテ阿片末吐根末各一分乳糖末八分ヲ取り親密ニ混和シテ製シタルモノニシテ本品十分中ニハ阿片末一分ヲ含有ス

効用 本品ハ殊ニ止瀉藥トシテ用ユ其他鎮靜藥又ハ發汗藥トシテ應用ス一回〇、一瓦乃至〇、三瓦ヲ用ユ

樟腦

性狀 白色半透明ノ結晶塊片若クハ粉末ニシテ特異ノ香氣ヲ有シ味灼クカ如クニシテ清涼ナリ水ニ溶解セス依的兒酒精及脂肪油ニハ容易ク溶解ス

効用 鎮痙藥麻醉催眠藥等トシテ應用ス一日數回〇、一瓦乃至〇、五瓦ヲ「オブラート」膠囊劑丸劑トシテ與フ

硝酸銀 (劇藥)

性狀 無色板狀中性ノ結晶ニシテ〇、六分ノ水十二分ノ酒精ニ溶解ス効用 收斂ノ目的ヲ以テ胃腸加答兒潰瘍出血等ニ應用ス一日三四回〇〇〇五瓦乃至〇、〇二瓦ヲ丸劑又ハ溶液トシテ與フ又點眼劑五百倍乃至千倍洗滌劑塗布劑其目的ニ依テ十倍乃至二百倍等トシテ外用ニ供ス劇藥ニ屬ス塵埃ニ接觸シ日光ニ感スルトキハ變色スルカ故ニ黒色或ハ黄色ノ硝子瓶ニ入レ硝子栓ヲ以テ固封シ注意シテ貯フヘシ

安知必林 (劇藥)

性狀 無色稜柱狀ノ結晶若クハ白色結晶性ノ粉末ニシテ中性ノ反應ヲ微シ味少シク苦ク水酒精、コロ、ホルムニ溶解ス

効用 解熱藥トシテ汎ク用キラル又鎮痙藥鎮痛藥トシテ用ユ一回ノ量〇、三瓦乃至〇、五瓦殊ニ急性偃麻質斯及神經痛ニ賞用ス劇藥ニ屬ス注意シテ貯フヘシ

次硝酸蒼鉛

性狀 白色細微結晶性ノ重キ粉末ニシテ酸性ノ反應ヲ微シ殆ント臭

味ナク氣中ニ於テ變化セス  
 効用 胃加答兒胃潰瘍胃痛等ニ賞用ス一日三四回〇五瓦乃至一瓦ヲ粉劑トシテ與フ又撒布劑トシテ外用ニ供ス

芫菁 (劇藥) 豆斑猫

性狀 長サ十五乃至十八、ミリメートル、廣サ四乃至六、ミリメートル、ノ黑色甲翼虫ニシテ頭ハ畧ホ心臟形ニシテ三角ヲ有シ其後部ニ代赭色ヲ帶フ甲翼ハ曇黑色ニシテ邊緣及ヒ中央ニ於テ類黃色ノ毛ヨリ成レル線條アリ腹部ハ黑色ニシテ光澤ヲ有シ下腹部ハ類黃色ノ毛ヨリ成レル四條乃至五條ノ輪帶ヲ具フ

効用 主ニ皮膚刺戟ノ目的ヲ以テ外用ニ供ス本品ハ劇烈ナル毒物ニ屬ス故ニ之ヲ粉碎スルニ當リ最モ注意ヲ加ヘサルヘカラス其際手巾ヲ以テ口鼻ヲ庇覆シ又塵防眼鏡ヲ以テ眼部ヲ庇ヒ其粉塵ヲ吸引セサル様注意スヘシ故ニ通常粉末トナシタルモノヲ用ユ  
 劇藥ニ屬ス能ク乾燥シ硝子瓶或ハ鐵葉製ノ器ニ入レ密封シ注意シテ

貯フヘシ

芥子末

性狀 黄色ノ粉末ニシテ水ヲ以テ濡セハ峻烈ナル香氣ヲ發ス  
 効用 主トシテ芥子泥或ハ芥子溶トシテ用ユ吐劑ニハ其五瓦乃至一〇瓦ヲ水ニ和シ或ハ浸劑トシテ服用セシムルモ胃ヲ刺戟スルコト大ナルヲ以テ實際ニ用ユルコト稀ナリ

醋酸鉛 (劇藥)

性狀 透映無色ノ結晶或ハ白色結晶性ノ塊ヲナシ味收斂性ニシテ僅ニ醋酸臭ヲ帶ヒ水及酒精ニ溶解ス本品ハ純品ト雖モ常水ニ溶解スレハ多少溷濁スルニ依リ蒸餾水ヲ使用スヘシ  
 効用 收斂藥トナシ止血ノ目的ニ一回〇〇一瓦乃至〇〇五瓦ヲ用ユ一回ノ極量ハ〇一瓦一日ハ〇三瓦ナリ外用ニハ含嗽劑灌腸料トナス劇藥ニ屬ス大氣ニ接觸スルトキハ炭酸ヲ吸收スルヲ以テ密栓シ注意シテ貯フヘシ

吐根 (劇藥)

性狀 通例蠕虫狀ニ蜿蜒シ膨起密接セル環輪ヲ有シ外面ハ帶褐灰色  
木心ハ淡黄色ニシテ微カニ特異ノ臭氣及不快ノ苦味ヲ存ス

効用 催吐藥又ハ解凝藥及祛痰藥トシテ用キ浸劑トシテ與フ吐劑ト  
シテハ〇、二瓦乃至〇、五瓦ヲ十分時乃至十五分時ニ反復シテ與ヘ吐ヲ  
得ルニ至ル解凝祛痰ノ目的ニハ一日數回〇、〇一瓦乃至〇、〇五瓦ヲ用  
ユ劇藥ニ屬ス注。意シテ貯フヘシ

攝涅瓦根

性狀 殘莖及根頭ヲ有シ多クハ小枝ニ分岐シ多少轉振シ其内側ニ沿  
フテ隆起セル稜線ヲ有シ皮部ハ淡褐色心部ハ淡黄色ヲ呈ス其味粘滑  
ニシテ後チ苛烈ナリ

効用 氣管枝加答兒ノ祛痰藥トナシ多クハ五瓦乃至一〇瓦ヲ二〇〇  
〇瓦ノ浸劑トシテ二日間ニ服ス

沃度仿謨 (劇藥)

性狀 光澤アル枸橼黄色細小ノ葉狀結晶ニシテ稍々泊芙蘭ニ類スル  
竄透性ノ臭氣ヲ有シ之ニ觸ルレハ脂肪様ノ感覺ヲナス水ニハ溶解セ  
ス

効用 創傷ノ療法ニ於テハ甚タ重要ノ藥品ニ屬ス硝子瓶中硝子栓ヲ  
裝シ密封シ日光ヲ遮リ注。意シテ貯フヘシ

石炭酸 (劇藥)

性狀 無色或ハ微ニ紅色ヲ帶フル長キ尖銳ノ結晶ヨリ成レル塊ニシ  
テ特異ノ臭氣ヲ有シ其反應ハ中性ナリ酒精依的兒、コロ、ホルム、福里  
設林ニ隨意ノ比例ニ於テ溶解ス

効用 石炭酸ハ内用ニ供スルコト殆ント稀ナリ防腐効力顯著ナルヲ  
以テ外用ニハ汎ク防腐性創傷療法ニ用ユ而シテ石炭酸ヲ以テ皮膚ヲ  
損傷シタルトキハ直チニ酒精ヲ以テ其部分ヲ洗滌スルヲ佳トス外用  
ハ通常百倍乃至五十倍ノ溶液ヲ用ユ劇藥ニ屬ス大氣殊ニ安母尼亞ニ  
接觸スレハ變色スルノ恐レアルヲ以テ注。意シテ貯フヘシ

結麗阿曹篤 (劇藥)

性狀 澄明無色或ハ類黃色或ハ類褐色油狀ノ液ニシテ中性ノ反應ヲ  
微シ強ク光線ヲ屈曲シ竝透性ノ臭氣ヲ有ス  
効用 内用ニハ防腐ノ目的ヲ以テ肺勞癰腫等ニ一回〇〇五瓦乃至〇  
三瓦ヲ應用ス此目的ニハ近來專ラ本品ノ重主成分タル「グアヤコール」  
並ニ本品及「グアヤコール」ノ炭酸化化合物ヲ撰用ス外用ニハ齒齦ヲ腐蝕  
スル等ニ用ユ

「イヒチオール」

性狀 帶褐色舍利別様ノ液ニシテ焦性ノ臭味ヲ有シ水ニハ透明ニ混  
和シ又酒精依的兒ニハ溶解シ難ク酒精依的兒各同容量ヨリ成レル混  
液ニハ殆ント全溶ス  
効用 本品ハ主トシテ外用トナシ儂麻質斯坐骨神經痛偏頭痛火傷凍  
瘡殊ニ濕疹鱗屑疹種々ノ寄生皮膚病及ヒ丹毒ニ塗布劑軟膏ノ狀トシ  
テ賞用セラル

水銀軟膏

性狀 帶藍灰色ノ軟膏ニシテ肉眼ヲ以テ水銀球ヲ見ルヘカラス本品  
ハ水銀豚脂牛脂ノ混合物ナリ  
効用 本品ハ一定ノ方法ヲ以テ施行スル塗擦療法ニ於テ專ラ梅毒ノ  
治療ニ用ユ其ノ他慢性炎腺腫皮膚ノ寄生虫等(陰虫)ニ塗擦スルコトア  
リ

單軟膏

性狀 黄色ノ軟膏ニシテ黃蠟胡麻油ノ混成物ナリ  
効用 專ラ皮膚ヲ保護スルニ用ユ又其他ノ藥物ヲ軟膏トナスノ際基  
礎質トナスモノナリ

硫黃軟膏

性狀 黄色ノ軟膏ニシテ昇華硫黃ノ細末ト豚脂ノ混成物ナリ  
効用 慢性皮疹ニ用ユ

華攝林

性状 白色或ハ淡類黄色半透明軟膏稠ノ物質ニシテ水酒精ニ溶解セ  
ス

効用 大氣ニ觸レテ變質セサルカ故ニ脂肪ニ優レリトシテ汎ク軟膏  
類ノ基礎トナス

### 第二章 調劑法

調劑法トハ處方ニ由テ示サレタル藥品ヲ配合シ化學的ノ分解或ハ化  
生物等ヲ生セサル適當ノ製劑ヲ調合スルヲ云フ藥局ニ於テハ藥瓶器  
械凡テ一定ノ場所ニ配置シ時々藥品ノ整理器具ノ修理等ニ注意スヘ  
シ

調劑時ニ當テハ毎ニ處方ニ就キ患者ノ氏名藥名分量及ヒ使用法等ニ  
注意シ誤謬ナキヲ要ス

#### (一) 秤量器

固形物質 秤量スルニハ「バランス」及ヒ「二瓦蘭謨秤」ノ二種ヲ用ユ  
「バランス」ハ一瓦以上ノ通常藥ヲ秤ルニ用ユ之ヲ使用スルニハ先ツ兩

秤皿ニ同大ノ劑紙ヲ置キ平均セシメ而シテ後チ左皿ニ重錘右皿ニ藥  
品ヲ取り指針ノ中心點ヲ示スニ注意シテ秤ルヘシ藥品若シ腐蝕性或  
ハ潮解性ヲ有スルトキハ成ル可ク輕キ器物即チ時計ノ硝子或ハ硝子  
ノ蒸發皿等ニ盛リ秤量スルヲ要ス

#### (二) 液量硝子

水藥及ヒ「丁幾類」ヲ秤量スルニハ便宜上之ヲ使用ス

#### (三) 乳鉢

藥品ノ研和煉合等ニ用ユ本品ニ硝子製陶製ノ二種アリ

#### (四) 木葉匙

眞鍮製及ヒ水牛製ノ二種アリ金屬ニ觸レテ分解スル藥品ヲ取扱フ時  
ハ水牛製ノ匙ヲ用ユヘシ

#### (五) 筥

膏藥筥及越幾斯筥ノ二種アリ使用シタル後チハ必ス清拭シ清潔ニ保  
存スヘシ

瓦蘭謨氏勿比較表

ミリ瓦	〇〇〇一	千分二瓦	六十分氏一	〇〇〇〇二六六分強
センチ瓦	〇〇一	百分二瓦	六分氏一	〇〇〇二六六分強
デチ瓦	〇一	十分二瓦	一氏半	〇〇二六六分強
瓦蘭謨	一〇	瓦位	十六氏	〇二六六分強
デカ瓦	一〇〇	十瓦	二氏半	二六六分強
ヘクト瓦	一〇〇〇	百瓦	三氏二氏半	二六六分強
キロ瓦	一〇〇〇〇	千瓦	凡三十三氏	二六六分強
ミリア瓦		萬瓦		二貫六百六十一分強
クキンタル		十萬瓦		二十六貫六百一十一分強

重量比較表

一ガロン	百六十号	四六〇〇〇	一貫四百九十三分三分餘
------	------	-------	-------------

一ポイント	二十号	六〇〇〇	百八十六分六厘餘
一ポント	十二号	三六〇〇	百一十一分七厘餘
一	八号	三〇〇	九分三分三厘餘
一	六十四氏	三七五	一分六厘餘
一	二十氏	一二五	三分六厘餘
一	氏一刃ノ二十分一	〇〇六	一厘九毛
一	滴	〇〇五	一厘九毛

(一) 病床檢溫法

檢溫ヲ行フニ最モ便利ナル部分ハ腋窩ニ於テ確定スルニアリ即チ此ノ部ヲ豫メ能ク拭ヒタル後チ其ノ水銀點ヲ腋窩ノ基底ニ接シ然ル後チ膊ヲ胸廓ニ固定シ十分乃至十五分時間挿置スルヲ要ス亦檢溫ノ成績ヲ迅速且確實ニ知ラントスルニハ直腸ヲ良トス此ノ部ニ使用センニハ亦檢溫器ニ油ヲ塗り適當ノ注意ヲ以テ殆ント五仙迷餘挿入スヘ



シ略五分時ニシテ巳ニ檢温器ノ最高度ヲ讀ムヲ得ヘシ温度ノ檢測ハ  
 毎日一回行ヒ或ハ疑ハシキ症或ハ緊要ノ際ニ於テ二回行ハサル可カ  
 ラス最モ適當ナルハ毎朝八時毎夕五時乃至七時ノ間ニ行フニアリト  
 ス

虚脱温攝氏三十六度以下

a 三十三度五分以下ヲ必死虚脱ノ温度トス

b 三十三度ヨリ三十五度間ノ虚脱温ハ猶生命ヲ保護シ得ルモノナリ

c 三十度乃至三十六度ハ更ニ危険ナラサル尋常ノ虚脱温ナリ

常温

a 三十六度乃至三十六度五分ハ稍々尋常ヨル降ルノ温度ナリ

b 三十六度七分乃至三十七度四分ハ安全ナル健體温度

c 三十七度五分乃至三十八度ハ稍々熱性ニ近キ温度ナリ

熱性温

a 三十八度乃至三十八度四分ハ輕症ノ熱性病ノ温度ナリ

b 三十八度五分乃至三十九度ニシテ夕三十九度五分ニ至ルハ中等熱  
 度ナリ

c 三十九度五分乃至四十度ハ重症ノ熱性病ノ温度ナリ

d 四十度六分以上ハ最重症熱病ノ温度ナリ

温度四十一度七分五厘ヲ越ユルコトアラハ必死ノ瀕終ヲ顯ハスモノ  
 ナリ

(二) 灌腸法

藥汁若クハ滋養液ヲ腸内ニ灌入スル法ニシテ通例其液ハ三十六七度  
 ニ加温スルヲ良トス又其量ハ灌腸劑ノ種類ニ從テ差アリ之ヲ施サソ  
 ト欲スルトキハ先ツ患者ヲ側臥セシメ臀部ヲ床縁ニ挺出シ其下ニ油  
 紙ヲ布キ灌腸器ノ嘴端ニ油ヲ塗り初メハ少シク前方ニ傾ケテ肛門ニ  
 挿入シ次テ少シク後方ニ傾ケ凡ソ二寸餘直腸ニ進メ然ル後テ灌腸液  
 ヲ徐々ニ送ルヘシ患者ニ努力ヲ忍ハシメ暫ク排泄セサル様注意スヘ  
 シ早キニ失スルコトアラハ只藥液ノミ排泄スルコトアレハナリ

(三) 點眼法

藥液ヲ眼中ニ用ユル法ニシテ患者ヲ仰首セシメ其前面ニ立チ左手ヲ以テ眼瞼ヲ少シク開キ右手ニ點眼器ヲ取り是レニ藥液ヲ含マシメ眼ノ外眥ニ滴入シ暫ク閉目セシムヘシ

(四) 吸入法

藥液ヲ吸入セシムルノ法ニシテ通例吸入器ヲ用ヒ或ハ單ニ沸湯ヲ磁碗ニ盛リ藥品ヲ加ヘ直チニ漏斗ヲ以テ之ヲ蓋ヒ其管端ヨリ之ヲ吸入ス一回ノ吸入時間ハ五分乃至三十分間ナリ

(五) 含嗽法

藥液ヲ口内ニ用ユルノ法ニシテ其前部ニ用ユルトキハ一口ノ藥液ヲ含ミ嗽クヲ以テ足レリトス若シ咽喉部ニ用ユル時ハ仰首開口シテ其液ヲ可成的口峽後部ニ進メ呼氣ノ力ヲ藉テ暫ク跳動セシメ後チ口外ニ出スモノトス

(六) 冷卷法

局部ヲ冷却スル法ニシテ水卷水卷ノ二種アリ甲ハ「リント」ノ一片ヲ冷水ニ浸シ緩ク絞リテ患部ニ貼シ大約五分時内外ニ交換スルヲ可トス「リント」ハ單層ナルヘシ若シ數層ナルトキハ蒸發ヲ防ケ速ニ溫暖トナリ其目的ヲ過ツモノナリ乙ハ護膜囊若クハ膀胱ニ少量ノ水ヲ盛リ拇指頭大ノ氷片數十個ヲ加ヘ絲織ヲ以テ囊口ヲ締括シ輕ク患部ニ貼接スヘシ氷片溶解シ盡キントスルトキハ少シク水ヲ去テ新タニ氷ヲ加フヘシ

(七) 溫卷法

患部ニ溫及ヒ濕氣ヲ與フル法ニシテ溫蒸卷布ノ二法アリ甲ハ「リント」ヲ數層ニ疊ミ熱湯若クハ藥液ニ浸シ緩ク絞リテ患部ニ貼シ油紙ヲ被ヒ蒸發ヲ防キ漸ク乾燥冷却セントスルトキハ速ニ交換スヘシ但シ貼用前ニハ先ツ己レノ手背ニ貼シテ其溫度ヲ試ミ湯傷ノ患ナキ様注意スヘシ乙ハ亞麻仁末若クハ小麥粉ヲ熱湯中ニ攪和シ軟泥狀トナシ厚サ凡ソ一「インチ」ノ平面塊トナシ布片ノ固縁ヲ翻轉シ卷布ノ邊縁ヲ被

ヒ患部ニ貼スヘシ其大サハ患部ヨリ廣キヲ要ス又溫度過劇ニシテ熱傷セサル様注意スヘシ又罽布ノ上ニハ「フランネル」若クハ數層ノ木綿ヲ衣シテ溫度ノ發散ヲ防キ冷却スルニ至ラハ速ニ交換スヘシ

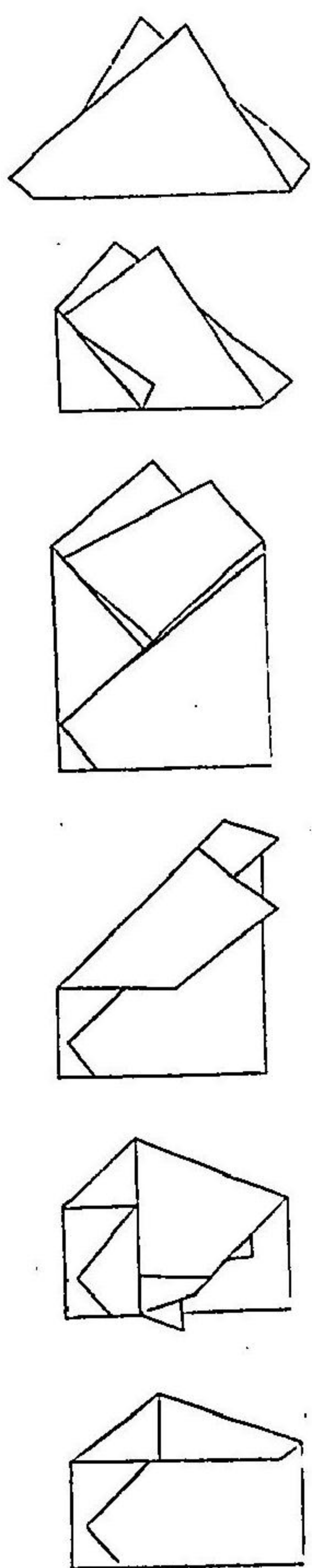
(八) 軟膏用法

「リント」ヲ適宜ニ切り其面ニ軟膏ヲ塗り患部ニ貼シ絆創膏若クハ細帶ヲ以テ保定スヘシ又水銀軟膏等ヲ塗擦スルトキハ皮膚ヲ摩擦シテ少ク發溫セシメ後チ丁寧ニ塗擦シテ其全ク消失スルニ至リ止ムヘシ塗擦後ハ綿花ヲ被ヒ細帶ヲ施スヘシ

(九) 劑紙ノ折方

左圖ニ示スカ如シ

第百十圖



救急醫術教科書終

明治三十七年九月十日印刷  
明治三十七年九月廿二日發行

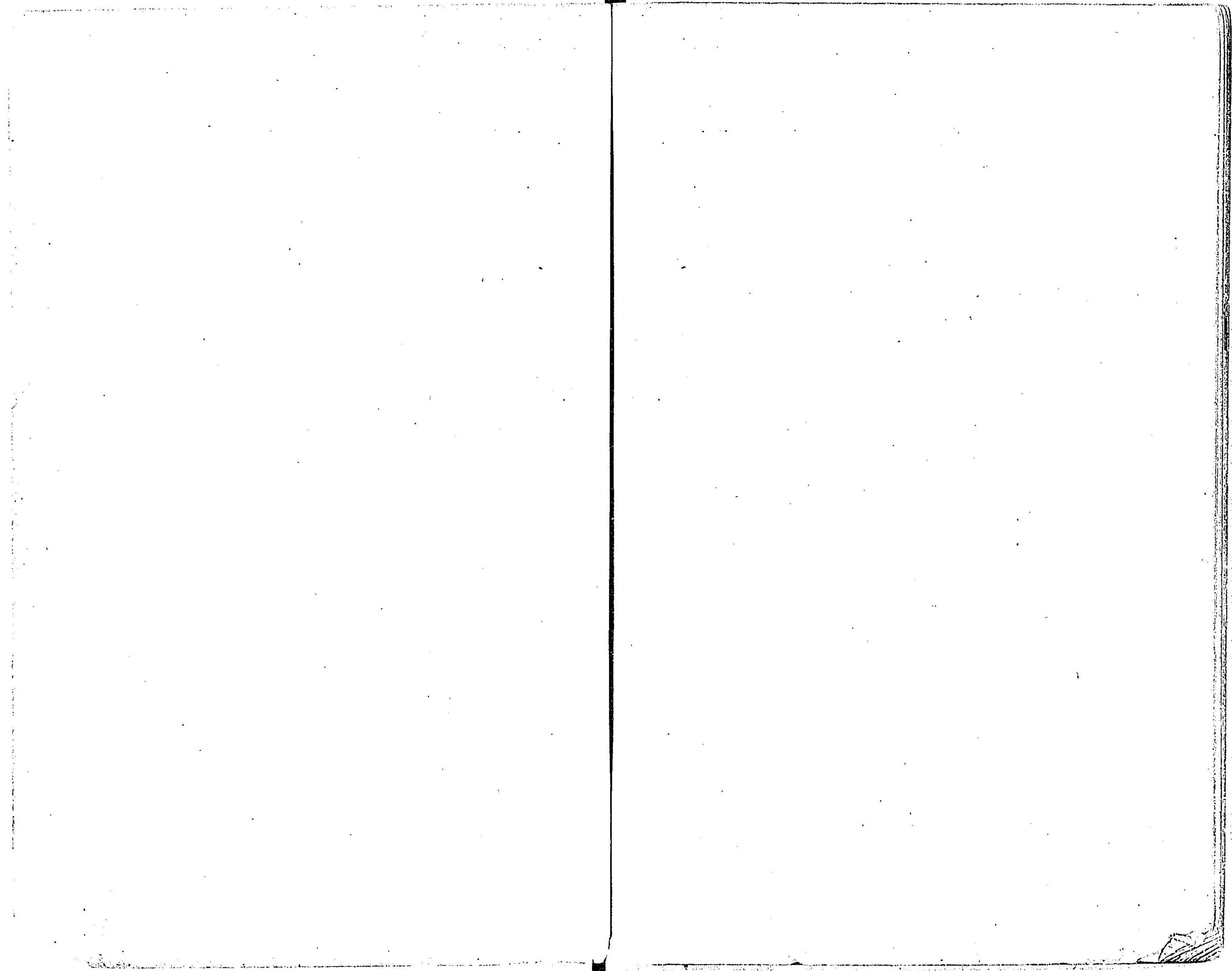
商船學校

東京市神田區美土代町二丁目一番地

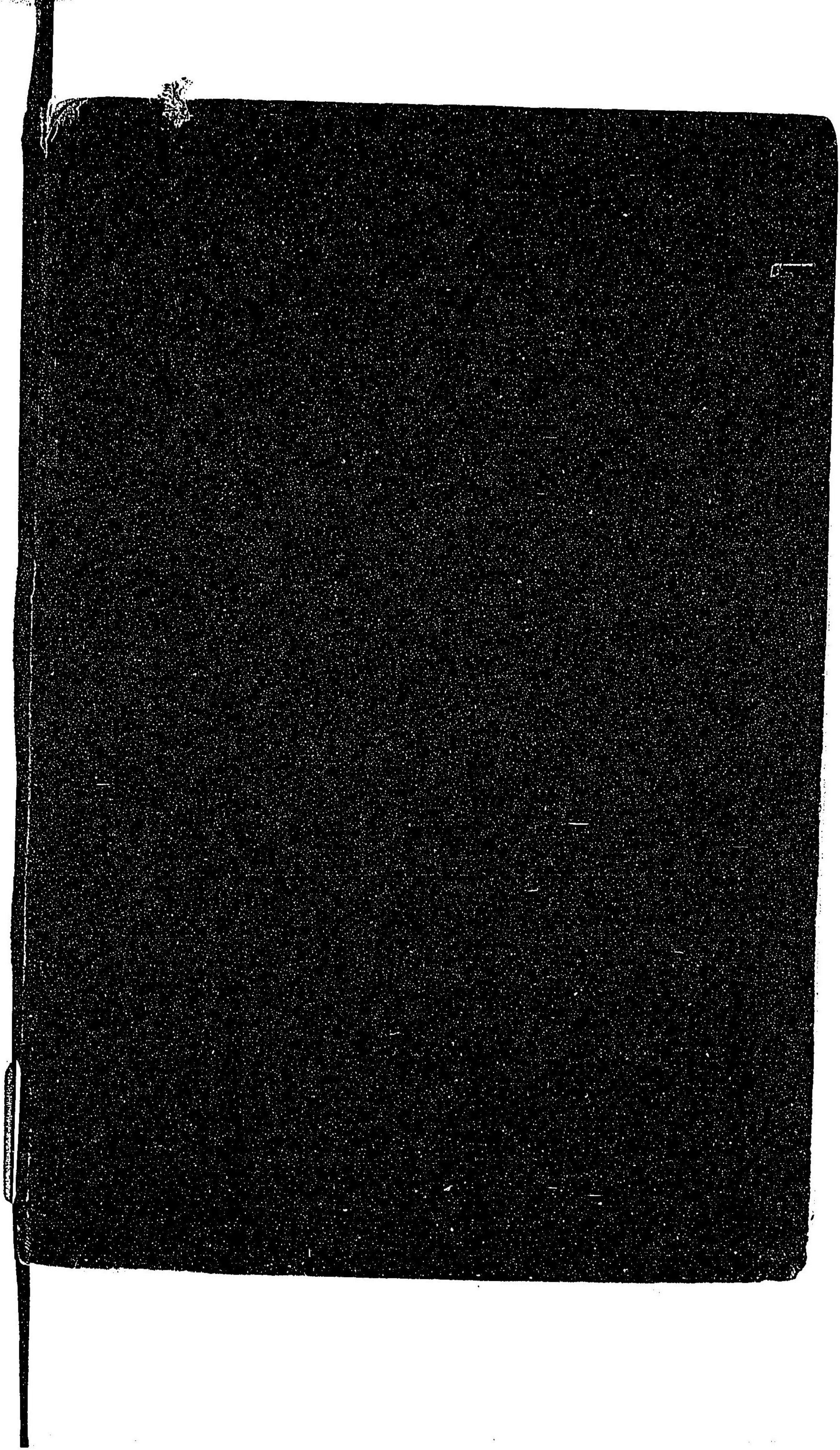
印刷者 島連太郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所 三秀舍活版所



60
173



60  
173

救急  
醫學  
教科書

岡  
崎  
學  
校

058560-000-0

60-173

救急医術教科書

笹原 新一郎/編

M37

CBC-0079

